

# 報告資料 2

## 令和 5 年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について

### 1 目的

- ・各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ること。
- ・各学校が、自己評価及び学校関係者評価の実施とその結果の説明・公表により、保護者、地域住民から自らの教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
- ・教育委員会が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、教育の質を保証し、その向上を図ること。

### 2 スケジュール

- |        |                        |
|--------|------------------------|
| 4月     | 学校経営重点計画（教育推進計画）の作成・公表 |
| 7月～9月  | 自己評価（中間）の実施、学校評議員への報告  |
| 11月    | 児童・生徒、保護者アンケートの実施      |
| 12月～1月 | 自己評価（年度末）の実施           |
| 2月～3月  | 学校関係者評価の実施             |
| 3月     | 指導課への評価結果の提出           |

### 3 各学校の評価結果

別紙による

### 4 評価結果を受けて

- ・取組指標と成果指標は同じ評価であった学校が全体の55%であった。取組指標が成果指標より上回る学校が17%であり、取組指標が成果指標より下回る学校が28%であった。
- ・コロナ禍前の教育活動に戻り、食育に関する取組や話し合い活動、異学年交流や小中連携などにおいて、各校工夫しながらの取組がみられた。
- ・学校関係者評価では概ね肯定的な評価をいただいているが、各学校で取り組むべき課題について貴重なご意見をいただいた。
- ・年度末評価の結果を今年度の教育課程に活かすとともに学校経営重点計画（教育推進計画）の立案を行う。

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供
			【目指す教師像】	○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心をもち、指導力向上に努める教師 ○公務員としての自覚をもち、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かに学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一體化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善推進プランの作成・実行 ○朝学習、家庭学習の充実	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.5	4 「90%以上の児童が授業が分かると回答」 3 「80%~90%未満の児童が授業が分かると回答」 2 「70%~80%未満の児童が授業が分かると回答」 1 「70%未満の児童が授業が分かると回答」	4	○指導と評価の一體化を意識した指導を行った。 ○タブレット端末を活用して学習の振り返りやまとめを行った。 ○「分かる・できる」を実感できるように導入・振り返りの充実を図った。	○先生方の指導が意識化され充実している。 ○昨年度よりもタブレット端末を利用した授業が多く見られた。	A	○学校全体での計画的な朝学習の実施 ○家庭学習の充実に向けての児童・保護者への啓発方法の工夫 ○タブレット端末の更なる活用に向けて今年度の実践の伝達 ○個に応じた学習支援の工夫
			○朝読書の質の向上 ○読書月間の取組の充実 ○図書支援員の有効活用 ○定期的な意識調査の実施	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	2.8	4 「95%以上の児童が1~2時間以上の読書をしていると回答」 3 「85%~90%未満の児童が1~2時間以上の読書をしていると回答」 2 「80%~85%未満の児童が1~2時間以上の読書をしていると回答」 1 「80%未満の児童が1~2時間以上の読書をしていると回答」	1	○朝読書や図書の時間を使って読書を取り組んだ。 ○定期的な意識調査ができなかった。	○読書に主体的に取り組むには、習慣化が大切な面がございました。 ○環境整備(廊下等への一覧の掲示等)がもつとあるといいます。 ○読書活動に対して積極的な努力が見られる。	C	○本の紹介や読み聞かせの時間の確保 ○授業と関連のある本の教室への配置や並行読書の実施 ○意欲を向上させるような読書カードの工夫
			○校内委員会の充実 ○大空教員との共同実践 ○ユニバーサルデザインを意識した環境づくり ○障害理解の推進(研修)	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.4	4 「90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答」 3 「80%~90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答」 2 「70%~80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答」 1 「70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答」	4	○校内委員会で情報共有・共通理解を図り組織で対応した。 ○特別支援教室と連携して対応した。 ○焦点化・構造化した授業づくりを心掛けた。 ○ユニバーサルデザインを意識した授業・環境づくりに努めた。	○校内委員会の充実が感じられる。 ○教室のユニバーサルデザインの視点から黒板の左側に「今日の予定」があるのは、気が散る。	A	○障害理解教育の全学年での実施 ○障害理解の研修への参加 ○全校での共通したユニバーサルデザインを意識した環境整備
		多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	○道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.0	4 「90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 3 「85%~90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 2 「80%~85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 1 「80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」	4	○道徳的価値や内容項目を意識した振り返りをしている。 ○授業の参観を十分にできなかった。 ○児童の変容をどのように見取っているのかが知りたい。	○年間指導計画に基づいた授業の充実が感じられた。 ○児童の変容をどのように見取っているのかが知りたい。	A	○道徳教育推進教師を中心に全学年での全体・年間計画の見直し ○教職員同士による計画的な授業参観の実施
			○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校の実現	4 「アンケート実施後の個別対応100%」 3 「アンケート実施後の個別対応95%」 2 「アンケート実施後の個別対応90%」 1 「アンケート実施後の個別対応85%」	3.9	4 「不登校(傾向を含む)人数0人」 3 「1人」 2 「2人」 1 「3人」	3.3	○スクールカウンセラー、家庭と連携し、丁寧な個別対応を行った。 ○未然防止・早期発見と迅速な対応に努めた。 ○日々の児童の様子の変化を見逃さないように努めた。	○不登校の人数の少なさから学校の対応への努力を感じられる。	A	○確実な保護者との情報共有と連携・協力、丁寧な児童への支援の継続 ○関係機関との連携・協力を含んだ組織的な対応
			○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り活動の充実	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.3	4 「90%以上の児童が学校が楽しいと回答」 3 「80%~90%未満の児童が学校が楽しいと回答」 2 「70%~80%未満の児童が学校が楽しいと回答」 1 「70%未満の児童が学校が楽しいと回答」	4	○縦割り班活動が毎週行われたことで異学年との交流が活発になった。 ○縦割り班活動の前後に活動の意義を考えさせたり、振り返らせたりした。	○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。 ○縦割り活動が活発なのはよい取組だと思う。 ○異学年で接する様子が多く見られるようになった。	B	○各学年で行った体験活動の一覧の作成 ○今年度の縦割り班活動の成果と課題の検証した改善策の作成 ○学級活動等での異学年交流の実施
	豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践	○道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.0	4 「90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 3 「85%~90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 2 「80%~85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」 1 「80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答」	4	○道徳的価値や内容項目を意識した振り返りをしている。 ○授業の参観を十分にできなかった。 ○児童の変容をどのように見取っているのかが知りたい。	○年間指導計画に基づいた授業の充実が感じられた。 ○児童の変容をどのように見取っているのかが知りたい。	A	○道徳教育推進教師を中心に全学年での全体・年間計画の見直し ○教職員同士による計画的な授業参観の実施
			○毎学期のアンケートを生かし、スクールカウンセラーや専門機関と連携し、いじめ・不登校の実現	4 「アンケート実施後の個別対応100%」 3 「アンケート実施後の個別対応95%」 2 「アンケート実施後の個別対応90%」 1 「アンケート実施後の個別対応85%」	3.9	4 「不登校(傾向を含む)人数0人」 3 「1人」 2 「2人」 1 「3人」	3.3	○スクールカウンセラー、家庭と連携し、丁寧な個別対応を行った。 ○未然防止・早期発見と迅速な対応に努めた。 ○日々の児童の様子の変化を見逃さないように努めた。	○不登校の人数の少なさから学校の対応への努力を感じられる。	A	○確実な保護者との情報共有と連携・協力、丁寧な児童への支援の継続 ○関係機関との連携・協力を含んだ組織的な対応
			○交流体験活動の実施 ○実践的体験活動の実施 ○栽培体験学習の実施 ○縦割り活動の充実	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.3	4 「90%以上の児童が学校が楽しいと回答」 3 「80%~90%未満の児童が学校が楽しいと回答」 2 「70%~80%未満の児童が学校が楽しいと回答」 1 「70%未満の児童が学校が楽しいと回答」	4	○縦割り班活動が毎週行われたことで異学年との交流が活発になった。 ○縦割り班活動の前後に活動の意義を考えさせたり、振り返らせたりした。	○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。 ○縦割り活動が活発なのはよい取組だと思う。 ○異学年で接する様子が多く見られるようになった。	B	○各学年で行った体験活動の一覧の作成 ○今年度の縦割り班活動の成果と課題の検証した改善策の作成 ○学級活動等での異学年交流の実施
		様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備	4 「毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上」 3 「2回」 2 「1回」 1 「0回」	2.9	4 「90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答」 3 「80%~90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答」 2 「70%~80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答」 1 「70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答」	3	○児童への外遊びへの声掛けを行った。 ○一緒に遊びコミュニケーションを取った。 ○他の対応等と一緒に遊ぶ機会がありもてなかった。	○縦割り遊びを充実させ、活発化を図ってはどうか。 ○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。	A	○係活動でのクラス遊びの推進 ○運動集会・運動週間等での運動の幅が広がるような取組の計画的な実施
			○年間を通した体力向上への取組(「元気アップガイドブック」等の活用)	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	2.6	4 「90%以上の家庭が体力向上に満足と回答」 3 「80%~90%未満の家庭が体力向上に満足と回答」 2 「70%~80%未満の家庭が体力向上に満足と回答」 1 「70%未満の家庭が体力向上に満足と回答」	1	○児童が楽しんで取り組める授業を心掛けて行っている。○めあてを毎回提示し、ねらいを明確にして授業を行っている。	○体力向上に向けて個人目標の設定が大切だと思う。 ○折を見て度に外遊びを奨励する。 ○「元気アップガイドブック」を十分に活用できていない。	B	○「元気アップガイドブック」の授業や休み時間等での計画的・継続的な活用 ○体力向上への保護者会・学年便り等での家庭への協力依頼 ○運動委員会の活動による体力向上への取組の充実
			○ランチルームの計画的な有効活用 ○栄養教諭や共同調理場と連携した食育の推進	4 「1年間で食育に関する授業の実施3回以上」 3 「2回」 2 「1回」 1 「0回」	3.3	4 「1年間の残菜率7%」 3 「1年間の残菜率8%」 2 「1年間の残菜率9%」 1 「1年間の残菜率10%」	4	○栄養教諭による食育の授業を各学年で実施した。 ○ランチルーム使用時に栄養教諭による食育の指導を行った。	○残菜率7%は、素晴らしい。 ○残菜率の低さから食育の効果がうかがえる。	A	○保健等の授業と栄養教諭による食育の授業を関連付け ○日々の給食指導の充実 ○新しくなる調理場の見学の実施
	輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指し、他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生きていく力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.1	4 「QUの結果で各学級の要支援群0人」 3 「1人」 2 「2人」 1 「3人」	3	○心理士からのフィードバックを生かし、適切な支援を行った。 ○課題や実態の把握に生かすことができた。 ○児童理解の一助とすることができた。	○意義ある学級づくりが行えていい。 ○児童理解は、大切なので十分に生かしてほしい。	B	○結果の全体での共有と全校としての支援方法の共通理解 ○次年度への効果的な支援方法等の確実な引継ぎ
			○学校生活への適応 ○仲間づくり、集団の結束 ○自ら役割の自覚 ○年間指導計画に応じたキャリア教育の実践	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.5	4 「90%以上の児童が得意・ものを考えると回答」 3 「80%~90%未満の児童が得意・ものを考えると回答」 2 「70%~80%未満の児童が得意・ものを考えると回答」 1 「70%未満の児童が得意・ものを考えると回答」	3	○学校生活のルールを適宜確認し、指導した。 ○学級活動の中でのみんなが参加できる取組や全員が楽しめる工夫について考える機会を設けた。	○キャリア教育は小中学校9年間を見直した計画をつくりたい。 ○学校生活のルールの適宜確認し、指導することが定着には必要である。	B	○3年間の特別活動の研究の成果を生かした日常の指導での実践 ○児童の実態把握と児童との関係づくり
			○地域人材を活用した取組の充実 ○家庭訪問・個人面談の実施 ○専門機関との連携 ○PTA活動への理解・協力	4 「4項目全て取り組むことができた」 3 「3項目は取り組むことができた」 2 「2項目は取り組むことができた」 1 「1項目は取り組むことができた」	3.1	4 「90%以上の児童が将来について考えると回答」 3 「80%~90%未満の児童が将来について考えると回答」 2 「70%~80%未満の児童が将来について考えると回答」 1 「70%未満の児童が将来について考えると回答」	3	○必要に応じて家庭への連絡を行い面談を実施した。 ○スクールカウンセラーや心理士との情報共有を行った。 ○地域人材を活用した取組ができなかった。 ○PTAの活動に協力・参加できなかった。	○コロナが明けて地域行事とどう連携するかが課題である。 ○地域人材の活用への取組を知りたい。 ○PTA、地域と学校行事との関わり方を工夫して活発にしたい。	A	○日々の様子が伝わるような保護者会の内容の工夫 ○PTAの年間の活動予定の把握 ○地域人材の発掘と一覧の作成

令和5年度

昭島市立共成小学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○ 助け合う子 ○ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	ビジョン	【目指す学校像】	○児童が、「学びがい」「協働意識」「心と体の元気」を感じる学校 ○児童が、「なりたい自分」を目指せる学校
			【目指す児童・生徒像】	○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自他を大切にし、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども
			【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が主体的に学ぶ学習者中心の授業改善により、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	「個別最適な学び」を意識した授業改善。	・指導の個別化 ・学習の個性化 ・個に応じた指導 ・特別支援の視点	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 何を学習するのか理解している…8割以上 3 何を学習するのか理解している…7割以上 2 何を学習するのか理解している…6割以上 1 何を学習するのか理解している児童が6割未満	4	中間報告の際に、理解が不十分であったことが、実践を積み重ねることで成果に表れた。	A	研修等を実施し、「個別最適な学び」を意識して授業改善を行い、授業力を向上させる。	
			・考えを共有する場の設定 ・児童同士の教え合いの場 ・ICTの効果的活用 ・多様な他者との関わり	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 友達と考えを共有するが楽しい…8割以上 3 友達と考えを共有するが楽しい…7割以上 2 友達と考えを共有するが楽しい…6割以上 1 友達と考えを共有する楽しさを感じている児童が6割未満	4	ICTを効果的に活用することで、「協働的な学び」を意識して様々な指導の工夫ができた。	A	単元や授業の中に、考えを共有する場を設定し、「協働的な学び」を推進する。	
		学ぶことの楽しさと学びの実感のある授業づくり。	・導入の工夫 ・1時間1単元の見通し ・1時間1単元の学びの自覚 ・スマーレステップで評価	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	4	4 楽しく学習でき、学習したことが分かる…8割以上 3 楽しく学習でき、学習したことが分かる…7割以上 2 楽しく学習でき、学習したことが分かる…6割以上 1 楽しく学習でき、学習したことが分かる児童が6割未満	4	一人一人に課題意識をもたらすことで、学ぶ楽しさを実感させることができた。	A	一人一人のことを考えた指導の工夫から、振り返りの時間を大切にし、次につながるようにさせる。	
		発達段階に応じた「自律型学習者」を育てる授業づくり。	・教師のアシリテーション ・学び方の指導 ・自己選択・決定の場 ・自主学習の取組	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 自分で決めた学習を進めることができる…8割以上 3 自分で決めた学習を進めることができる…7割以上 2 自分で決めた学習を進めることができる…6割以上 1 自分で決めた学習を進めることができる児童が6割未満	3	授業づくりを工夫する意識はしているが、発達段階に合わせて取り組むことが課題である。	B	授業づくりを工夫とともに、家庭とも連携し家庭学習の充実も意識して取り組む。	
豊かな心	児童が自尊感情をもち、安心な環境の中で、自他を大切にしながら協働できる学校を創る。	全ての児童にとっての「安心基地・居場所づくり」。	・SOSの出し方指導 ・いじめ未然防止早期解決 ・相談しやすい雰囲気 ・個別の配慮・支援の充実	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	4	4 学校で安心して学習・生活できている…8割以上 3 学校で安心して学習・生活できている…7割以上 2 学校で安心して学習・生活できている…6割以上 1 学校で安心して学習・生活できている児童が6割未満	4	5・11月にQUに取り組み、2回の研修によって学級の実態を把握したことが、効果的だった。	A	WEBQUを次年度は活用し、児童の実態をより理解して、安心して学習できる環境づくりに努めていく。	
		互いに認め合い、自他を尊重する人権感覚の醸成。	・友達の良いところ探し ・感謝を伝え合う活動 ・道徳授業の質の向上 ・「コグトレ」認知機能強化	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 自分も相手も大切にしている…8割以上 3 自分も相手も大切にしている…7割以上 2 自分も相手も大切にしている…6割以上 1 自分も相手も大切にしている児童が6割未満	4	代表委員会を中心に挨拶運動や優しい言葉かけ運動を行い、自他を大切にしていた。	A	児童がすんで考えて行動できる機会を増やし、自他ともに大切にする心を育てていく。	
		他者とつながり、協働する喜びの実感。	・やさしい言葉 ・挨拶ありがとう アイコンタクト ・異学年交流による成功体験 ・児童集会活動の充実	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 みんなと一緒に活動するが楽しい…8割以上 3 みんなと一緒に活動するが楽しい…7割以上 2 みんなと一緒に活動するが楽しい…6割以上 1 みんなと一緒に活動する楽しさを感じている児童が6割未満	4	たてわり活動や集会が増え、他者とのつながりを意識させることができた。	A	児童集会やたてわり活動の内容を充実させ、他者とのつながりを感じさせ、協働する意識を高める。	
		運動する楽しさと体力向上を実感できる授業づくりと日常の運動推進。	・体育講師の有効活用 ・共成サークルの取組 ・運動遊びの充実 ・元気アップガイドブック活用	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 体力が付いていている実感…8割以上 3 体力が付いていている実感…7割以上 2 体力が付いていている実感…6割以上 1 体力が付いていている実感がある児童が6割未満	4	運動を楽しむ活動を増やし、意識は向上しているが、実質的な成果は表れていない。	A	体力テストで児童の課題を把握し、運動を楽しみながら体力向上できるように指導を工夫する。	
健やかな体	児童が自分の「心と体の元気」を感じながら、体力向上と健康について考え方実践する態度を育む。	望ましい生活習慣と安全な生活のための実践的態度の育成。	・家庭と連携したGM60分 ・食育教育の充実 ・安全指導の充実 ・児童の危険回避能力向上	4 全教員が4項目全て取り組むことができた。 3 全教員が3項目全て取り組むことができた。 2 全教員が2項目全て取り組むことができた。 1 一部の教員が2項目以上には至らなかった。	3	4 基本的生活習慣が身に付いている…8割以上 3 基本的生活習慣が身に付いている…7割以上 2 基本的生活習慣が身に付いている…6割以上 1 基本的生活習慣が身に付いている児童が6割未満	3	児童の危機回避能力は高い。基本的生活習慣が課題である。	B	毎月の安全指導や避難訓練を徹底し、保護者会等で生活習慣に関しては呼びかけていく。	
		しなやかで折れない心(レジリエンス)の醸成。	・命の教室 ・ストレス対処法 ・前向きの言葉かけ ・心のもちろん指導	4 全教員が前向きな言葉かけや心のもちろん指導した。 3 9割の教員が前向きな言葉かけや心のもちろん指導した。 2 8割の教員が前向きな言葉かけや心のもちろん指導した。 1 7割の教員が前向きな言葉かけや心のもちろん指導した。	4	4 困ったときに前向きな気持ちをもてる…8割以上 3 困ったときに前向きな気持ちをもてる…7割以上 2 困ったときに前向きな気持ちをもてる…6割以上 1 困ったときに前向きな気持ちをもてる児童が6割未満	3	全教員の意識が向上し、実践力が高まっている。少しずつ児童への働きかけが変化してきた。	A	命の教室などの出前授業を通して、心のもちろん指導と児童ともに前向きな言葉掛けを心がける。	
		児童の主体的に学校や学級をよりよくしようとする力の育成。	・一人一人の活躍の場 ・学級会活動の充実 ・主体性を実感できる行事 ・共成会議や実行委員会	4 全教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 3 9割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 2 8割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。 1 7割の教員が児童の活躍の場と、主体性を促す指導をした。	4	4 学校や学級で役に立っている…8割以上 3 学校や学級で役に立っている…7割以上 2 学校や学級で役に立っている…6割以上 1 学校や学級で役に立っている児童が6割未満	4	児童が主体的に活動を工夫したことにより、自己有用感が高まり、一体感が生まれた。	A	主体性を実感できる行事で、実行委員一人一人の活躍する場を設け、児童の自己有用感を高めていく。	
		温かく、共感的な人間関係に支えられた望ましい学級集団づくり。	・学級ルールの徹底 ・安心して挑戦できる風土 ・2回のQUの結果活用 ・SSTやP・Aの活用	4 全学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 3 9割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 2 8割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。 1 7割の学級担任が4項目を意識した学級経営を行った。	4	4 クラスは楽しい…8割以上 3 クラスは楽しい…7割以上 2 クラスは楽しい…6割以上 1 クラスが楽しいと感じている児童が6割未満	4	学級経営研修で学んだことをすぐに実践していくことで、学級の雰囲気が向上した。	A	QUの結果を活用した学級経営研修を実施し、理解を深めたうえで、学級を支えていくようにする。	
輝く未来	多くの人と、かかわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自己のよさを実感し、自己決定しながら「なりたい自分」を目指す学校を創造する。	「なりたい自分」の実現に向け、自己選択・自己決定できる力の向上。	・キャリアアルバムの活用 ・自己選択の場の設定 ・スマーレステップでの成功体験の積み上げ	4 全教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 3 9割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 2 8割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。 1 7割の教員が児童の変容を認め、児童に伝え価値づけた。	4	4 自分で決めて行動できる…8割以上 3 自分で決めて行動できる…7割以上 2 自分で決めて行動できる…6割以上 1 自分で決めて行動できる児童が6割未満	4	キャリアアルバムを効果的に活用することで、成長を振り返り、自己決定する力が身に付いてきた。	A	授業の中で自己選択・自己決定する場を設けることで、児童がすんで行動できるようにしていく。	

令和5年度

昭島市立富士見丘小学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	<input type="radio"/> よく考える子ども <input type="radio"/> けんこうな子ども <input type="radio"/> すんで働く子ども <input type="radio"/> 思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校				
			【目指す児童・生徒像】	未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供				
			【目指す教師像】	児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師				

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺子屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺子屋…実施回数90%以上	4	4 学年×10分の家庭学習…90%以上	3	○推進プラン改善充実 ●学びのすすめの実践	B	[自主学習ノート]を[学びのすすめ]活用の核として、学習習慣を定着させる。	
				3 寺子屋…実施回数80%以上		3 学年×10分の家庭学習…80%以上					
				2 寺子屋…実施回数70%以上		2 学年×10分の家庭学習…70%以上					
				1 寺子屋…実施回数70%未満		1 学年×10分の家庭学習…70%未満					
		生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4 教科でのICT活用…90%以上の授業	3	4 診断シート正答数半数未満…10%未満	2	○タブレットの有効活用 ●柔軟な教育課程編成	A	[60分授業]など、柔軟な教育課程で分かりやすい授業を展開する。	
				3 教科でのICT活用…80%以上の授業		3 診断シート正答数半数未満…20%未満					
				2 教科でのICT活用…70%以上の授業		2 診断シート正答数半数未満…30%未満					
				1 教科でのICT活用…70%未満の授業		1 診断シート正答数半数未満…30%以上					
		未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4 探求ノートの活用…年20回以上	3	4 主体的に課題解決…90%以上	3	○学習意欲習慣の向上 ●探究ノート有効活用	A	[探求ノート]を計画的に活用し、学習成果を[学習発表会]で表現する。	
				3 探求ノートの活用…年10回以上		3 主体的に課題解決…80%以上					
				2 探求ノートの活用…年5回以上		2 主体的に課題解決…70%以上					
				1 探求ノートの活用…年5回未満		1 主体的に課題解決…70%未満					
豊かな心	認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 異学年活動…実施率90%以上	4	4 社会通念上のいじめ…0~5件	4	○穏やかな学校生活 ●自己肯定感の向上	A	ふれあい月間の「命の授業」、QUの活用など、豊かな関係性を醸成する。	
				3 異学年活動…実施率80%以上		3 社会通念上のいじめ…6~15件					
				2 異学年活動…実施率70%以上		2 社会通念上のいじめ…16~30件					
				1 異学年活動…実施率70%未満		1 社会通念上のいじめ…31件以上					
		認知機能を高め、自己共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜力等の重視	4 コグトレ…実施率90%以上	4	4 認知機能の向上…90%以上の児童	4	○対人スキルが向上 ●QUのさらなる活用	A	[コグトレ]で社会性を育てる認知・感情統制-対人スキルを等育成する。	
				3 コグトレ…実施率80%以上		3 認知機能の向上…80%以上の児童					
				2 コグトレ…実施率70%以上		2 認知機能の向上…70%以上の児童					
				1 コグトレ…実施率70%未満		1 認知機能の向上…70%未満の児童					
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 グッドモーニング60分…90%以上の児童	4	4 病欠児童…1日の平均0~3人	3	○感染防止の徹底 ●食育の計画的推進	A	[お弁当の日]を中心に、家庭と連携して食育、健康教育に努める。	
				3 グッドモーニング60分…80%以上の児童		3 病欠児童…1日の平均4~7人					
				2 グッドモーニング60分…70%以上の児童		2 病欠児童…1日の平均8~11人					
				1 グッドモーニング60分…70%未満の児童		1 病欠児童…1日の平均12人以上					
		基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4 元気アップの取組…18項目以上	3	4 運動することが楽しい…90%以上の児童	3	○運動習慣が改善 ●元気UP活用充実	D	元気アップガイドブックを活用した「元気アップタイム」を拡大・充実させる。	
				3 元気アップの取組…14項目以上		3 運動することが楽しい…80%以上の児童					
				2 元気アップの取組…10項目以上		2 運動することが楽しい…70%以上の児童					
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 学級外の児童支援…90%以上の教員	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童	4	○ストレスゼロ学校生活 ●不登校ゼロを目指す	C	[家庭と連携した情報モラル教育]など、適切に対処できる力を育成する。	
				3 学級外の児童支援…80%以上の教員		3 大人に相談できる…80%以上の児童					
				2 学級外の児童支援…70%以上の教員		2 大人に相談できる…70%以上の児童					
				1 学級外の児童支援…70%以上の未満		1 大人に相談できる…70%未満の児童					
		言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたらせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上	3	4 言語能力向上…80%以上の児童	4	○図書館の活用充実 ●総合学習の単元開発	A	図書館活用で言語力を鍛え、[読書感想文]や[調べる学習]を深める。	
				3 図書館機能を活用…全学級月3回		3 言語能力向上…70%以上の児童					
		情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	「ハイブリッドスマートオンライン」の活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4 タブレットの活用…全学級週10回以上	3	4 論理的思考力向上…80%以上の児童	4	○探求ノート開発・活用 ●自分の言葉で表現	A	[SDGs]を踏まえた見方・考え方を働かせる「短作文」などで、思索力を養う。	
				3 タブレットの活用…全学級週6~9回		3 論理的思考力向上…70%以上の児童					
		多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	調べる学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	2 タブレットの活用…全学級週3~5回		2 論理的思考力向上…60%以上の児童					
				1 タブレットの活用…全学級週3回未満		1 論理的思考力向上…60%未満の児童					
		多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	調べる学習コンクール参加等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	4 調べる学習コン指導…100%の学級	3	4 主体的に探究…80%以上の児童	3	○縦割り班活動の充実 ●世界を見据えた教育	B	[SDGs]を踏まえた[思索コン]などで、未知の課題に対峙する力を育成する。	
				3 調べる学習コン指導…90%以上の学級		3 主体的に探究…70%以上の児童					
				2 調べる学習コン指導…80%以上の学級		2 主体的に探究…60%以上の児童					

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】	○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
			【目指す児童・生徒像】	○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども ○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども
			【目指す教師像】	○ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との相互理解を深め協働できる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○授業力アドバイザー事業のアドバイスを受け、教員一人一人が自己点検を行なながら、個々の授業力の向上を図る。  ○ICTを活用した授業を充実させ、児童の「情報活用能力」の育成を図る。  ○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の推進を図る。	○各教員は、「授業力自己診断」を実施した。  ○校内研究を充実させると共に、学校独自のアンケートを実施し、結果を分析して対応策を講じる。  ○読書活動の推進と言語能力の育成に向け、学校司書及びボランティアが連携し、子供たちの読書活動の推進を行う。	4 全教員が「授業力自己診断」を実施した。  3 80%~100%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。  2 70%~80%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。  1 70%未満の教員が「授業力自己診断」を実施した。	4	4 調査が前年比+2ポイント以上  3 調査の正答率が前年比0~+2ポイント未満  2 調査の正答率が前年比0~−4ポイント未満  1 調査の正答率が前年比−4ポイント以上	2	東京都や全国の学力調査の結果の分析と考察を共有し、授業改善と学力向上につながる具体策を実践することで、1月の学力調査では目標達成を目指す。	A	様々な調査結果から、学習指導の在り方を振り返るとともに、児童の実態について次年度に引き継いでいく。	
				4 全教員がアンケートを実施した。  3 80%~100%未満の教員がアンケートを実施した。  2 70%~80%未満の教員がアンケートを実施した。  1 70%未満の教員がアンケートを実施した。	4	4 90%以上の児童がタブレットを活用している。  3 80%~90%未満の児童がタブレットを活用している。  2 70%~80%未満の児童がタブレットを活用している。  1 70%未満の児童がタブレットを活用している。	3	年度途中と年度末に結果を比較できるように、低・中学生でも2学期中にアンケートを実施し、児童の実態を把握できるようにした。	B	児童のICT技能は向上した。表現のツールとしての活用方法について、さらに指導を工夫していく。	
				4 各学級で図書室を月4回以上使用した。  3 各学級で図書室を月3回以上使用した。  2 各学級で図書室を月2回以上使用した。  1 各学級で図書室を月1回以下使用した。	3	4 90%以上の児童が週に1度以上図書室を利用している。  3 80%~90%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。  2 70%~80%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。  1 70%未満の児童が週に1度以上図書室を利用している。	1	図書主任が中心となり、図書館支援員や担任と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指したが、週に1度以上利用する児童は67%にとどまった。	B	図書主任が中心となり、図書館支援員や担任、委員会担当と連携しながら、定期的な図書室利用の習慣化を目指す。	
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを發揮し、安心して生活できるようにする。  ○道徳科を道徳教育の要の時間と位置付け、教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	○年2回の家庭生活アンケートから児童の自己肯定感を数値化し、個々の児童応じた指導をする。  ○教科横断的な視点で、年間指導計画に位置付け、計画的に指導し、道徳教育の一層の充実を図る。	4 全教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。  3 80%~100%の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。  2 70%から80%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。  1 70%未満の教員がアンケートから個々の児童に応じた指導を行った。	4	4 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている  3 70%以上の児童が自己肯定感があると感じている  2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている  1 自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった	4	教員が児童の変化に気付くアンテナを高く持ち、丁寧な言葉掛けを行うことで、児童が安心して生活できるように努めた。	A	来年度も児童が安心して生活できる環境づくりに努めていく。	
				4 すべての教員が各教科と連携付け、道徳教育を行った  3 70%~100%の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行った  2 40%~70%の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行った  1 40%未満の教員が各教科と連携付け、道徳教育を行った	3	4 95%以上の児童が振り返りを書くことが出来た  3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た  2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た  1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった	3	道徳授業地区公開講座前に、道徳教育年間計画をもとに全教員で他教科との連携について確認する時間をもち、意識向上を図った。	A	年度初めに、道徳教育年間計画を周知することで、各教員が各教科とのつながりを意識して指導できるようになる。	
				4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った  3 80%~100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った  2 70%~80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った  1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	3	4 学級生活満足群が50%以上  3 学級生活満足群が40%以上  2 学級生活満足群が30%以上  1 学級生活満足群が30%以下	4	特別活動部主事が、学級活動計画に基づいて実施されているかどうかチェックを行った。QUの結果分析をもとに学級の実態に合った経営を見直していく。	A	次年度も年2回のQUを実施し学級経営に生かしていく。また学級活動計画の更なる充実に努めていく。	
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○児童体力・運動能力、生活運動習慣の向上に向け、運動の習慣化を図り、体力の向上を推進する。  ○新しい生活様式の習慣化を図り、健康・安全に留意できる児童の姿を目指す。  ○望ましい食習慣の形成を促進する。	○低・中・高の系統性を意識した年間指導計画の作成及び体育的活動の充実を図る。  ○生活指導・保健指導・学級活動の充実を図り、計画的な指導を行う。	4 全教員が計画を活用した指導を行った  3 80%~100%未満の教員が計画を活用した指導を行った  2 70%~80%未満の教員が計画を活用した指導を行った  1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	3	4 調査結果が昨年比平均ポイントから+2ポイント以上  3 調査結果が昨年比~+2ポイント  2 調査結果が昨年比-2ポイント以内  1 調査結果が昨年比-2ポイント以下	2	体力向上部を中心に、年間指導計画と年間を通じた全校の体育的取組のよりよい改善を図ったが、昨年度比-0.3ポイントだった。	B	年間を通じた体育的活動を充実させ、運動の習慣化を図ることで、児童の体力維持・向上を目指す。	
				4 全教員が計画的な授業を実施した  3 80%から100%未満の教員が計画的な授業を実施した  2 70%から80%の教員が計画的な授業を実施した  1 70%未満の教員が計画的な授業を実施した	3	4 90%以上の児童が目標を達成している  3 80%~90%未満の児童が目標を達成している  2 70%~80%未満の児童が目標を達成している  1 70%未満の児童が目標を達成している	4	生活指導部と養護教諭を中心に、年間指導計画の確実な実施を心掛けた。また、適宜、「マスクを外す」指導を行ってきた。	B	養護教諭を中心として、計測や学級活動を活用した保健指導を充実させる。都・市の方針に応じ、生活様式について柔軟に対応していく。	
				4 全教員が食育計画を活用した指導を行った  3 80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った  2 70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った  1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	3	4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している  3 80%~90%未満の児童が食育のめあてを達成している  2 70%~80%未満の児童が食育のめあてを達成している  1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している	3	2学期のお弁当日の取組状況から、児童の食育のめあてに対する達成度が82%と分かった。栄養士と食育担当を中心に、さらに充実を図っていく。	B	市内の食材を使用した給食の日やお弁当の日を中心、食育計画についてより一層の充実を図る。	
輝く未来	○子どもたちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○幼保・小中が連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。  ○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。  ○学校の取組を、保護者や地域に向けて発信し、教育活動への参画意識を高める。	○入学時は「スタートカリキュラム」を実施し、学年始めになりたい自分を目指す「キャリアルーム」を作成する。  ○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全教員が方策を実施した  3 80%~100%未満の教員が方策を実施した  2 70%~80%未満の教員が方策を実施した  1 70%未満の教員が方策を実施した	3	4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる  3 80%~90%未満の児童が安心して進級・進学できる  2 70%~80%未満の児童が安心して進級・進学できる  1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる	3	特別活動部を中心にキャリアルームの進行状況を管理し、全校でそろえて実施できた。進級・進学に関するアンケートは2月実施予定である。	B	定期的にキャリアルームを保護者と共有する機会をもち、家庭と連携して児童の成長を見守る計画を作成する。	
				4 全学年の教員が交流体験を実施した  3 80%~100%未満の学年・教員が交流体験を実施した  2 70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した  1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	4	4 90%以上の児童が目標を達成している  3 80%~90%未満の児童が目標を達成している  2 70%~80%未満の児童が目標を達成している  1 70%未満の児童が目標を達成している	4	全年齢が文化やスポーツなどについて外部人材と交流体験を行うことができた。	A	地域・外部人材の活用について情報を集め、様々な人と児童が交流できるようになる。	
				4 各行事の実施を受け、毎月ホームページを更新した  3 各行事の実施を受け、学期に3回ホームページを更新した  2 各行事の実施を受け、学期に2回ホームページを更新した  1 各行事の実施を受け、学期に1回ホームページを更新した	4	4 80%以上の保護者が教育活動への理解を示している  3 50%以上の保護者が教育活動への理解を示している  2 20%以上の保護者が教育活動への理解を示している  1 20%未満の保護者が教育活動への理解を示している	3	毎回のアンケート結果の教育活動に関する項目の回答を計算すると平均76.5%だった。体力向上と将来や夢に関する項目の理解向上を図る必要がある。	B	情報を発信する大切さを共有し、担当だけでなく各分掌の担当者がホームページで情報を発信できるようにする。	

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】	・子供たちにとって学びがいのある学校 ・教職員にとって働きがいのある学校
		【目指す児童・生徒像】	・心身共に健康な児童 ・創造性に富んだ児童 ・人間として調和のとれた児童
		【目指す教師像】	・人権感覚が豊かな教師 ・創造性に富んだ教師 ・チームを意識した協調性のある教師 ・絶えず研究と修養に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力	「分かること・できることが楽しい」基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けさせ、主体的に学びに向かう力を育成する。	全ての児童への基礎・基本の確実な定着を目指し、分かりやすい指導を工夫・改善する。	全ての児童に基礎・基本が定着するよう、学習環境を整備し、個に応じた指導方法を工夫・改善する。	4 教室の学習環境を整備した…90%以上の教員 3 教室の学習環境を整備した…80%以上の教員 2 教室の学習環境を整備した…70%以上の教員 1 教室の学習環境を整備した…70%未満の教員	4	4 授業が分かりやすい…95%以上の児童 3 授業が分かりやすい…90%以上の児童 2 授業が分かりやすい…80%以上の児童 1 授業が分かりやすい…80%未満の児童	4	余計なものを置かず、学習に集中できる環境を整備している。課題、まとめ、振り返りを明確にした授業を行っている。	教員が熱心に指導している様子が見られた。十分に達成されている。	A	机回りの整理整頓の指導、教室環境の整備、分かりやすい授業展開を引き続き行う。	
			デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進する。	4 ICT機器を学習に活用した…90%以上の教員 3 ICT機器を学習に活用した…80%以上の教員 2 ICT機器を学習に活用した…70%以上の教員 1 ICT機器を学習に活用した…70%未満の教員	4	4 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…90%以上の児童 3 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…80%以上の児童 2 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%以上の児童 1 タブレットを使うのは勉強の役に立っている…70%未満の児童	4	意見や結果を共有するため、ICTを活用した。書画カメラを有効活用している。一人一台のタブレットを日常的に活用している。	授業においてICTがよく活用されている。校内研究でも活用の研究をしていることが素晴らしい。	A	デジタル環境を活用し、個別最適な学び、協働的な学びを実現し、更なる効果的な活用を研究する。	
			主体的・対話的で深い学びを実現する授業を工夫し、自らすんで学習に取り組む児童を育成する。	4 児童相互の学び合い活動を実践…80%以上の教員 3 児童相互の学び合い活動を実践…70%以上の教員 2 児童相互の学び合い活動を実践…60%以上の教員 1 児童相互の学び合い活動を実践…60%未満の教員	4	4 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…90%以上の児童 3 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…80%以上の児童 2 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%以上の児童 1 話し合う時間や意見などを発表する時間に進んで参加している…70%未満の児童	3	考えの交流や話し合い、自分の思考を整理する時間を持っている。ペアワークやグループワークを授業の中に取り入れた。	授業において児童が小グループでよく話し合っている様子が見られた。	A	主体的・対話的な深い学びの実現のため、考察する時間・意見や考え方を交流する時間を確保する。	
			道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方方に気付き、互いに認め合う児童を育成する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…95%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…90%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%未満の教員	3	4 思いやの心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやの心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやの心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやの心をもって行動している…80%未満の児童	3	他者の考えと比較しながら、様々な考え方方に触れさせていく。児童の考えを否定せずに思つたことを言えるようにしている。	道徳授業により思いやの心が育てられている。道徳授業地区公開講座の授業でも児童がよく考えていた。	A	「考え・議論する道徳」の授業の実現を目指し、互いの考え方を尊重しながら意見を交流する授業を実践する。	
		「みんなと仲良くできて楽しい」道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方方に気付き、互いに認め合う児童を育成する。	4 お互いを認め合う道徳授業の実施…95%以上の教員 3 お互いを認め合う道徳授業の実施…90%以上の教員 2 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%以上の教員 1 お互いを認め合う道徳授業の実施…80%未満の教員	3	4 思いやの心をもって行動している…95%以上の児童 3 思いやの心をもって行動している…90%以上の児童 2 思いやの心をもって行動している…80%以上の児童 1 思いやの心をもって行動している…80%未満の児童	2	他者の考えと比較しながら、様々な考え方方に触れさせていく。児童の考えを否定せずに思つたことを言えるようにしている。	道徳授業により思いやの心が育てられている。道徳授業地区公開講座の授業でも児童がよく考えていた。	A	「考え・議論する道徳」の授業の実現を目指し、互いの考え方を尊重しながら意見を交流する授業を実践する。	
			いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く対応し、安心して通える学校にする。	4 校园いじめ対策基本方針に基づいた指導…90%以上の教員 3 校园いじめ対策基本方針に基づいた指導…80%以上の教員 2 校园いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%以上の教員 1 校园いじめ対策基本方針に基づいた指導…70%未満の教員	4	4 学校で安心して生活できている…95%以上の児童 3 学校で安心して生活できている…90%以上の児童 2 学校で安心して生活できている…80%以上の児童 1 学校で安心して生活できている…80%未満の児童	2	道德等を通していじめは絶対に許されないことを伝えていく。トラブルがあったときは早期発見、早期解決に努めている。	児童・教職員共にいじめに対する理解が深まっている。児童の回答が改善されるように一層努力してほしい。	B	いじめに関する知識力と実践力を高めるために、生活指導夕会を活用して研修を重ねていく。また、いじめ対策委員会で未然防止や早期解決に向けて、綿密な児童の情報と共通理解を図っていく。	
			人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い、自尊感情や自己有用感を高める。	4 異学年交流活動を含めた指導の実施…全教員 3 異学年交流活動を含めた指導の実施…95%以上の教員 2 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%以上の教員 1 異学年交流活動を含めた指導の実施…90%未満の教員	4	4 学校や学級の仲間と接している…95%以上の児童 3 学校や学級の仲間と接している…90%以上の児童 2 学校や学級の仲間と接している…80%以上の児童 1 学校や学級の仲間と接している…80%未満の児童	3	縦割り班活動や委員会・クラブ活動で異学年で活動できるようグループを作ると工夫をしている。	異学年交流をすることはとても良い。今後も継続していくほしい。	B	縦割り活動、1年生を迎える会、6年生を送る会の他、「校外学習」「芸術鑑賞教室」や「英語村」等の本物と出会いの体験を充実させる。	
			心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	4 健康教育活動の実施…90%以上の教員 3 健康教育活動の実施…80%以上の教員 2 健康教育活動の実施…70%以上の教員 1 健康教育活動の実施…70%未満の教員	4	4 安全・安心や健康についての知識を活かしている…95%以上の児童 3 安全・安心や健康についての知識を活かしている…90%以上の児童 2 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%以上の児童 1 安全・安心や健康についての知識を活かしている…80%未満の児童	3	グッドモーニング60分を取り組み、一日の生活の実態を把握し、健康の保持増進のための方法を示している。	生活習慣の改善は大切です。家庭も巻き込んだグッドモーニング60分をさらに進めるべき。	B	Google フォームへの入力になり、全体の傾向をつかみやすくなっている。児童一人一人の取組が見えづらくなっているので、より良い方法を模索する。	
健やかな体	「心も体も弾んで楽しい」からがた計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成を目指す。	4 健康教育活動の実施…90%以上の教員 3 健康教育活動の実施…80%以上の教員 2 健康教育活動の実施…70%以上の教員 1 健康教育活動の実施…70%未満の教員	4	4 体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	2	コオーディネーショントレーニングを指導し、様々な運動に適応できるようにしている。期間を決めて集中的に取り組んだ。	運動が好きになるような取組を続けてほしい。コオーディネーショントレーニングの取組を取組指標として設定してはどうか。	B	体育学習の充実を図るのであれば、体つくり運動の研修や授業提案、ワークシートの共有、他領域への展開が有効だが、校内研究が必要。目標や方策を授業外に絞る。	
			一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	4 体力向上に関する指導を20回以上実施…90%以上の教員 3 体力向上に関する指導を20回以上実施…80%以上の教員 2 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%以上の教員 1 体力向上に関する指導を20回以上実施…70%未満の教員	1	4 体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	1	体を動かしたり遊んだりしている…95%以上の児童 3 体を動かしたり遊んだりしている…90%以上の児童 2 体を動かしたり遊んだりしている…80%以上の児童 1 体を動かしたり遊んだりしている…80%未満の児童	1	児童の健康を増進するため、元気アップガイドブックの項目を児童にチェックさせた。定期的に活用し睡眠時間や食事について学習し生活習慣の改善をしている。	B	児童の実態や体力テストの結果を体育委員会が話し合い、元気アップガイドブックを参考に運動イベントを開催する。体力テストの前後や結果返却後に、元気アップガイドブックに載っている運動を選択して取り組む授業を行う。
			自らの健康を適切に管理するとともに改善能力を培う。	4 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…90%以上の教員 3 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…80%以上の教員 2 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%以上の教員 1 元気アップガイドブックの活用した取組を10回以上実施…70%未満の教員	1	4 食事や栄養についての知識を生かしている…95%以上の児童 3 食事や栄養についての知識を生かしている…90%以上の児童 2 食事や栄養についての知識を生かしている…80%以上の児童 1 食事や栄養についての知識を生かしている…80%未満の児童	1	体力テスト期間に元気アップガイドブックの項目を児童にチェックさせた。定期的に活用し睡眠時間や食事について学習し生活習慣の改善をしている。	児童の健康を増進するため、元気アップガイドブックを活用した取組を充実させるべき。数値目標は再検討。	B	児童の実態や体力テストの結果を体育委員会が話し合い、元気アップガイドブックを参考に運動イベントを開催する。体力テストの前後や結果返却後に、元気アップガイドブックに載っている運動を選択して取り組む授業を行う。	
			自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…90%以上の教員 3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…80%以上の教員 2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%以上の教員 1 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…70%未満の教員	4	4 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…95%以上の児童 3 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…90%以上の児童 2 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…80%以上の児童 1 自分の得意なところを伸ばす指導の実施…80%未満の児童	2	自分の目標を考えさせ、自分が頑張ったことを意識せている。係活動で得意なことを生かす場面をつくっている。	児童に目標をもたせ、個性を伸ばす指導ができる。児童にも自分の得意なことを意識させたい。数値目標は再検討。	B	学級での当番、係活動の他、委員会活動、縦割り班活動などで、目標・めあてをもたせ、自己有用性を高める指導を行う。	
輝く未来	「みんなの役に立てて楽しい」自己有用感を感じる機会を通して、自分には良いところがあると感じる子供を育成するとともに、キャリア教育を推進し、社会貢献力の育成を図る。	キャリア教育を推進し、自分の将来に対して考えさせる。	児童が自分自身を見つめ、自分の得意なところを見付ける指導を行う。	4 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…90%以上の教員 3 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…80%以上の教員 2 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%以上の教員 1 キャリア・パスポートの活用した指導の実施…70%未満の教員	4	4 自分の将来について考えることがある…95%以上の児童 3 自分の将来について考えることがある…90%以上の児童 2 自分の将来について考えることがある…80%以上の児童 1 自分の将来について考えることがある…80%未満の児童	2	学期ごとにめあてを立て、それを振り返っている。キャリア・パスポートで自身の日常を振り返らせている。	児童一人一人の将来を見据えた指導がなされている。児童が自身の将来を考える機会を増やしてほしい。数値目標は再検討。	B	高学年だけでなく、低学年のうちから自分の目標、将来の自分のことを考える機会を増やす指導を検討する。	
			学級や学年、家庭や社会の中での生活と、授業を関連させ、適応性と社会貢献力を養う指導を行う。	4 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…90%以上の教員 3 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…80%以上の教員 2 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%以上の教員 1 生活を振り返り、より良くしようとする指導の実施…70%未満の教員	4	4 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…95%以上の児童 3 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…90%以上の児童 2 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%以上の児童 1 これまでの自分の生活を振り返り、より良くしようと思う…80%未満の児童	2	学級活動として取り組ませ、自分自身の生活について振り返りをしながら生活の改善に取り組ませている。	児童に実体験をさせる取組を増やし、将来に生かせる生きる力を育んでほしい。数値目標は再検討。	B	学級や委員会、クラブ活動などで、児童が自ら企画したものを持ち、PDCAサイクルで回し達成感を味わえるように、教員が調整し働きかける。	

令和5年度

昭島市立中神小学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○よく考える子(すすんで学び考え、あさらめずに問題に取り組む子ども) ○心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にする子ども) ○たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りつよく行動する子ども)	ビジョン	【目指す学校像】	○すべての子どもの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分も他人も良さが分かり、大切にできる子ども
			【目指す教師像】	○様々な教育課題に適切に対応し、持ち味・強みを生かしてチーム力を高めることができる教師集団

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	課題解決的な学習展開による探究的な学びの充実を図る。	生活科・総合的な学習の時間を中心にして、全ての教科等で課題解決・問題解決に取り組む。	教科で習得した力や見方・考え方を発揮して主体的な学びを開拓する。	4 全ての単元で実施した。	4	4 全学年の定着率が90%以上	4	・校内研究での生活科・総合的な学習の時間の取組を中心として、課題解決的な学習が創意工夫の基、營まれてきた。	A	・本年度の成果を市教委指定2年次発表に向けて継続して行っていく。	
				3 4分の3以上の単元で実施した。		3 全学年の定着率が80%以上					
				2 2分の1以上の単元で実施した。		2 全学年の定着率が70%以上					
				1 12分の1未満の単元で実施した。		1 全学年の定着率が70%未満					
		すすんで取り組み、あきらめずに問題に取り組む態度を養う。	基礎的な知識・技能の習得を図りながら主体的・対話的で深い学びを図る。	4 全教科・領域で実施する。	4	4 学びが深まったと思える児童が80%以上	4	・個別への配慮を通じ、基礎的な知識・技能の習得が進んでいる。粘り強く問題に取り組む姿勢を一層育していく必要がある。	B	・振り返りの充実を継続して行い、「何ができるようになったか。」「次に何を生かすのか。」を明確にさせていく。	
				3 90%以上の教科・領域で実施する。		3 学びが深まったと思える児童が70%以上					
				2 80%以上の教科・領域で実施する。		2 学びが深まったくと思える児童が60%以上					
				1 実施した教科・領域が80%未満である。		1 学びが深まったくと思える児童が60%未満					
		思考力・判断力・表現力の向上を図る。		4 全学級が取組を行っている。	4	4 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が80%以上	4	・思考ツールや対話の形態の工夫、目的意識を明確にしたアウトプットなど、指導の工夫・改善が図られた。	B	・現在進められているペアトーク、グループ学習による学び合いを継続、充実させていく。	
				3 11学級以上が取組を行っている。		3 思考力・判断力・表現力の向上が見られた児童が70%以上					
豊かな心	児童の自尊感情・自己有用感の更なる向上を図り、積極的に社会に関われる人材を育成する。	良い学校・学級を築こうとする能力や態度を育む。	協力し合えて、みんなの役に立て楽しいと思える特別活動を開拓する。	4 全学級が取組を行っている。	4	4 すすんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上	4	・プロジェクトの立ち上げや係活動の工夫など、自己有用感を醸成する取組が各学級で行われている。	A	・学級によってはポスターや校内放送による広報が行われている。折角の活動なので、更に広報を開拓していく。	
				3 11学級以上が取組を行っている。		3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上					
				2 9学級以上が取組を行っている。		2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上					
				1 取組を行っている学級が9学級未満である。		1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満					
		多様性を認め、積極的にかかわろうとする心を醸成する。	道徳教育との関連を図りながら障害者理解を深める。	4 全学級が道徳教育との関連を図っている。	4	4 障害者との共生を具体的に理解した児童が90%以上	4	・年間計画に従って、外部人材の力を借りて行われている。	B	・外部人材との打ち合わせをより充実させ、道徳教育との関連を図った事前指導を効果的に行なうことが必要である。	
				3 全学級で事前指導・事後指導を行っている。		3 障害者との共生を具体的に理解した児童が80%以上					
		自己表現を充実させ、他者と関わる力を育成する。		2 全学級で事前指導を行っている。		2 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%以上					
				1 障害者理解の授業のみを行っている。		1 障害者との共生を具体的に理解した児童が70%未満					
健やかな体	総合的な体力向上と日常的な健康教育の重視を図りながら、心身ともに健康な子どもを育てる教育を行う。	総合的な体力向上を目指す。	体育的行事の計画的実施による充実、体育指導の工夫・改善を図る。	4 全学級が充実した取組を行っている。	4	4 80%以上が「よく体を動かしている。」	4	・特に今年度は、事前指導に力を入れ、充実した発表を行うことができた。	A	・聴き手からの感想を伝える取組を通じ、「良い聴き手」になるための意識が育っているので、継続する。そのための表現も充実させる。	
				3 11学級以上が充実した取組を行っている。		3 すすんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上					
				2 9学級以上が充実取組を行っている。		2 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上					
				1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。		1 すすんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満					
		困難を乗り越え、達成を目指すたくましい心を育む。	自己の体力や心の状態を知り、向上させようとする習慣を育てる。	4 全学級が充実した取組を行っている。	4	4 体力向上を果たしたと思える児童が90%以上	4	・体育的行事委員会を中心として、体力調査の結果を基にした重点課題とその対策が周知された。	B	・各学級が示された対策や運動例を基に体力向上に取り組み、その結果を再検証して改善を更に進める。	
				3 11学級以上が充実した取組を行っている。		3 体力向上を果たしたと思える児童が80%以上					
		自分の身は自分で守ることができる態度を身に付けさせる。		2 9学級以上が充実取組を行っている。		2 体力向上を果たしたと思える児童が70%以上					
				1 取組を行っている学級が9学級未満である。		1 すすんで取り組む児童・家庭が70%未満					
輝く未来	世界に目を向け、正解のない問題に立ち向かう力を育成する。	郷土昭島に対する愛着や誇りを育てる。	地域の自然・伝統文化及び技術などを積極的に取り入れる。	4 全学級が取組を行っている。	4	4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上	4	・地域の行事、文化財に触れる活動を積極的に行っているのは良い。地域を巻き込み、今後も継続してほしい。	A	・この地域に豊富に存在する学習財を存分に生かし、より充実した「児童による社会参画」を開拓していく。	
				3 11学級以上が取組を行っている。		3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上					
				2 9学級以上が取組を行っている。		2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上					
		SDGsを「実社会・実生活」を見る目としてとらえられるようにする。		1 取組を行っている学級が9学級未満である。		1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満					
		地域の子どもは地域で育てる基盤を築いていく。	4 全学級が充実した取組を行っている。	4	4 関係性を認識できたと思える児童が90%以上	3	・生活科・総合的な学習の時間での取組を通じ、自分たちの行動とSDGsとの結び付きを意識し、実践できるようになっていく。	B	・これから社会を見通し、SDGsの先を目指した地域への貢献を開拓し、「取りこぼさない」から「参画し、改善する」取組に発展させる。		
			3 11学級以上が充実した取組を行っている。		3 関係性を認識できたと思える児童が80%以上						
			2 9学級以上が充実取組を行っている。		2 関係性を認識できたと思える児童が70%以上						
			1 充実した取組を行っている学級が9学級未満である。		1 関係性を認識できたと思える児童が70%未満						

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	ビジョン	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体		
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子	○認め合い、協力して行動する子	○すすんで体を整える子
			【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師	○組織で考え、組織で動くことができる教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働きながら行う、主体的・対話的な学びの実現	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働きながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究会を充実させ、授業力の向上を図る。	4 90%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りに取り組んだ。	4	4 授業力診断シートの平均が4月より0.4P以上高い。 3 授業力診断シートの平均が4月より0.2P以上高い。 2 授業力診断シートの平均が4月同様(誤差0.1P) 1 授業力診断シートの平均が4月より0.2P以上低い。	4	全ての教員がそれぞれに視点をもって授業改善を取り組んだことで、多くの教員が授業力の向上を実感した。それによつて、年度末の校内発表会では、たくさんの成果を共有することができた。	A	研究内容は変わるが、チームや分科会ごとの学び合いの成果(実績)を生かし、授業改善の流れについては持続可能な形で継続していく。	
				4 8割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 3 7割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 2 6割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。 1 5割以上の授業でICTを活用し、児童主体の個別最適な学習を実践した。	3	4 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的 3 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的 2 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上肯定的 1 児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が50%以上否定的	3	一人1台端末が定着し、児童が自分に合ったツールを選択して学習する姿も現れている。複数学年が同時にアクセスすることで、ネットにつながなくなるなど、ハード面での課題は引き続き大きい。	B	ネットワーク環境の現状について、市に改善を望する。情報モラルに関する「情報モラル教育計画」を継続して推進し、タブレット端末の一斉回収・配布、情報モラル全校指導、タブレット端末一斉修理など、保護者とも連携して進める。	
				4 90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 3 85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 2 80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 1 70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が95%以上 3 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が90%以上 2 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が85%以上 1 児童アンケート「学校の授業の内容がわかりやすい」が70%未満	3	授業改善推進プランの作成を通して、各学年で児童の学習状況に応じた授業改善を計画・実施することができた。また、そのことが児童の授業内容の理解につながっている。	B	児童の学習状況を日常の授業や学力調査から把握する。把握した課題に応じた授業改善をPDCAサイクルに沿って行っていくことをより一層浸透させていく。	
				4 全教職員が日常的に指導した。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上 3 児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上 2 児童アンケート「自分から挨拶」が60%以上 1 児童アンケート「自分から挨拶」が60%未満	4	朝の入室時に児童を出迎えたり、挨拶の声をかけたりすることができた。また、コロナが5類になり、マスクをしないことが増え、表情を見ず声を掛け合うことが増え、コミュニケーションの機会が増えた。	A	朝の入室時の出迎えや挨拶を継続し、職員から率先して挨拶をするよう心がける。また、児童会などの自発的な挨拶運動の実施も引き続き行っていく。	
豊かな心	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自分と共に他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然に通り合う学級、学校をつくる。	4 全教職員が日常的に指導した。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「自分から挨拶」が80%以上 3 児童アンケート「自分から挨拶」が70%以上 2 児童アンケート「自分から挨拶」が60%以上 1 児童アンケート「自分から挨拶」が60%未満	4	朝の入室時に児童を出迎えたり、挨拶の声をかけたりすることができた。また、コロナが5類になり、マスクをしないことが増え、表情を見ず声を掛け合うことが増え、コミュニケーションの機会が増えた。	A	朝の入室時の出迎えや挨拶を継続し、職員から率先して挨拶をするよう心がける。また、児童会などの自発的な挨拶運動の実施も引き続き行っていく。	
				4 90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 3 85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 2 80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 1 80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。	4	4 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が95%以上 3 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が90%以上 2 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%以上 1 児童アンケート「自分や友達を大切にしている」が80%未満	4	ふれあい月間や道徳授業地区公開講座の際には「いじめ」を取り上げた授業を行い、道徳推進教師が研修の案内を行った。また、年間計画どおりに各学年が授業を行い、ワークシートに記録を残すこととした。	A	ふれあい月間や道徳授業地区公開講座で引き続き「いじめ」を取り上げる。道徳教育推進教師を中心とした指導の充実など、学校の取組を保護者や地域に発信していく。	
				4 全教員が3回以上「いじめ」に関する授業を行った。 3 90%が3回以上「いじめ」に関する授業を行った。 2 80%が3回以上「いじめ」に関する授業を行った。 1 80%未満が3回以上「いじめ」に関する授業を行った。	4	4 児童アンケート「いじめは許さないこと」が95%以上 3 児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上 2 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%以上 1 児童アンケート「いじめは許さないこと」が85%未満	4	毎学期、学校生活児童アンケートを行い、「いじめ」は全て担任が聞き取りを詳細に行い対応した。また、ふれあい月間に「いじめ」総合対策の冊子を活用した研修を行ったり、職員会で情報共有を行った。	A	いじめ対策委員会を毎月定期的に実施し、常に情報の共有を行い、組織で人権教育の推進を継続する。また、学校生活アンケートを年3回実施して、小さなサンクスを見逃さないように丁寧に対応する。	
				4 全校児童が参加した。 3 90%以上の児童が参加した。 2 80%以上の児童が参加した。 1 70%以上の児童が参加した。	4	4 体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で市平均以上 3 体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で市平均以上 2 体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で市平均以上 1 体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で市平均以上	3	元気アップタイムや体育の授業を通して、積極的に運動するようになった。しかし、運動能力が全体として向上しているわけではない。学校の限られた時間だけではなく、多種多様な運動で児童ができるように発信していく必要性を感じている。	B	元気アップタイムや体育の準備運動を活用した様々な運動遊びを紹介したり実施したりして、放課後の遊びにつなげていく。また、全般的な体力向上の取組を意図的・計画的に実施する。	
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校の取組により体力向上を目指す。	4 全校児童が参加した。 3 90%以上の児童が参加した。 2 80%以上の児童が参加した。 1 70%以上の児童が参加した。	4	4 児童アンケート「健康について学び理解している」が80%以上 3 児童アンケート「健康について学び理解している」が70%以上 2 児童アンケート「健康について学び理解している」が60%以上 1 児童アンケート「健康について学び理解している」が60%未満	4	毎学期、学校生活児童アンケートを行い、「いじめ」は全て担任が聞き取りを詳細に行い対応した。また、ふれあい月間に「いじめ」総合対策の冊子を活用した研修を行ったり、職員会での情報共有を行った。	A	いじめ対策委員会を毎月定期的に実施し、常に情報の共有を行い、組織で人権教育の推進を継続する。また、学校生活アンケートを年3回実施して、小さなサンクスを見逃さないように丁寧に対応する。	
				4 全学級で記録と振り返りを行った。 3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	4	4 児童アンケート「健康について学び理解している」が80%以上 3 児童アンケート「健康について学び理解している」が70%以上 2 児童アンケート「健康について学び理解している」が60%以上 1 児童アンケート「健康について学び理解している」が60%未満	3	生活リズムカードを半日3回実施し、児童自身が生活の振り返りを行う機会をつくった。また、生活リズムカードの結果を保健師が確認した。課題になっていた点については、改善のヒントを保健師により掲載し児童が生活を見直せるようにした。	B	保健師により保健室前の掲示板を活用し、児童に「早寝・早起き・朝ごはん」について推奨していく。また、グッドモーニング60分と「早寝・早起き・朝ごはん」を連携させた取組を検討する。	
				4 全教員が日常的に指導を行った。 3 90%以上の教員が日常的に指導した。 2 80%以上の教員が日常的に指導した。 1 80%未満の教員が日常的に指導した。	4	4 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が90%以上 3 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が85%以上 2 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が80%以上 1 児童アンケート「学校で学んだ安全の知識を生かす」が80%未満	2	毎月予告なしの避難訓練や安全指導を行っている。ただ、それが当たり前になりすぎで児童の中での実感がないと思われる。安全指導についての体験や実感が生まれる取組を模索することが課題である。	B	防災講座を充実させるなど地域とのつながりをもてる取組を検討していく。また、ゲストティーチャーを招いて実感もてる訓練を実施するなど、安全指導の内容を検討する。	
				4 全教員が話合い活動を充実させた。 3 90%以上の教員が話合い活動を充実させた。 2 80%以上の教員が話合い活動を充実させた。 1 70%以上の教員が話合い活動を充実させた。	4	4 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が95%以上 3 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が90%以上 2 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%以上 1 児童アンケート「話し合う時間にすすんで参加している」が80%未満	3	特別活動主任が中心となって、全学級会グッズを準備し、学級活動の進め方にに関する研修を行ったため、各クラスで学級会が実施された。さらに、児童主体で話合いが進むようにしていく。	A	学校経営の基盤として学級活動を位置付け、全ての学級で日常的に実施できるようにする。	
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童と教職員とが知恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるスポーツ及びアートフェスティバルの計画を立て、実施する。	4 90%以上の児童が楽しく参加した。 3 80%以上の児童が楽しく参加した。 2 70%以上の児童が楽しく参加した。 1 60%以上の児童が楽しく参加した。	4	4 児童アンケート「行事の満足度」が90%以上 3 児童アンケート「行事の満足度」が80%以上 2 児童アンケート「行事の満足度」が70%以上 1 児童アンケート「行事の満足度」が60%未満	4	実行委員会を中心に児童が話し合い、行事をより良くする工夫を考え実施することで、行事の満足度が高くなつた。各学級での話合い活動をさらに充実させ、実行委員の話合いもより活性化するように計画していく。	A	学校行事だけではなく、委員会活動や総合的な学習の時間と関連させて、学校全体で「みんなが笑顔になる」ために、異学年交流の視点を盛り込んだ企画を計画・実行していく。	
				4 全学年が体験的活動を実施した。 3 5つの学年が体験的活動を実施した。 2 4つの学年が体験的活動を実施した。 1 3つの学年が体験的活動を実施した。	4	4 児童アンケート「学校の授業は分かりやすですか。」が98%以上 3 児童アンケート「学校の授業は分かりやすですか。」が95%以上 2 児童アンケート「学校の授業は分かりやすですか。」が90%以上 1 児童アンケート「学校の授業は分かりやすですか。」が90%未満	3	単元計画に合わせて、外部人材を活用した特別授業を実施し、児童の興味開拓を唤起することで児童の学びが深まつた。各学年で活用した外部人材を記録しておき、次年度に引き継ぐ。	B	地域人材との交流の機会を増やす。また、体験的活動を増やす。	

学校教育目標	◎すすんとする子 ○健康な子 ○考える子 ○協力する子	ビジョン	【目指す学校像】	子供一人一人の『幸せ』を具現化する学校+教職員一人一人の『働きがい』を具現化する学校				
			【目指す児童・生徒像】	どの共同体でも力を発揮できる子(2030年の日本で生きる子供たちへ)				
			【目指す教師像】	教育者としての熱意とスキルを併せ持つ教師				

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	主体的な学びの喜びを通して、児童・教師が「光華遊学」の成果を実感する	'協働的な学び'の具現化	・体験型学習の充実 ・主体性を引き出す課題の提示 ・対話的な学びの充実	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が話し合いにすんで参加していると回答 3 80%以上の児童が話し合いにすんで参加していると回答 2 70%以上の児童が話し合いにすんで参加していると回答 1 60%以上の児童が話し合いにすんで参加していると回答	2	体験型および課題解決学習の頻度は高いが、発言については意欲の二極化が見られる。	A	全学習の中で、ホワイトボード等、特に対話につながる学習ツールの活用を検討していく。	
			・ICTの活用スキル向上 ・個に応じた学習方法の保証 ・個に応じた学習評価の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 3 80%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 2 70%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 1 60%以上の児童が授業にすんで参加していると回答	4	個別最適な学びの推進もあり、個々の学習意欲は高い傾向が続く。	B	本年度施行した新たな学びのスタイルを継続、児童の視点で学習意欲を喚起し続ける。	
			・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
		'個別最適な学び'の具現化	・ICTの活用スキル向上 ・個に応じた学習方法の保証 ・個に応じた学習評価の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 3 80%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 2 70%以上の児童が授業にすんで参加していると回答 1 60%以上の児童が授業にすんで参加していると回答	4	個別最適な学びの推進もあり、個々の学習意欲は高い傾向が続く。	B	本年度施行した新たな学びのスタイルを継続、児童の視点で学習意欲を喚起し続ける。	
			・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
			・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
		'考え方のルーティーン'の共有化	・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
			・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
			・自ら気付く学習の保証 ・熟慮する学習の保証 ・意図的に既習を活用する学習の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 3 80%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 2 70%以上の児童が授業がわかりやすいと回答 1 60%以上の児童が授業がわかりやすいと回答	4	授業中の理解度は高い。課題は基礎的な知識の定着である。	A	本年度後半始めた「ノートを活用した振り返り」を家庭学習に定着させたい。	
豊かな心	多様な見方・考え方を働きかせ、自ら楽しさ(ワクワク・ドキドキ)を見い出す心のクセを身に付ける	多様性を認め合う心の醸成	・聞く力・態度の育成 ・特別支援教育への理解 ・人権感覚の育成	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3 80%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2 70%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1 60%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	日常的にも自他を大切にしている児童は多い。多様性の相互承認を推進する。	B	今後も多様性の相互承認を人権教育の基盤とし、校内外のリソースを活用していく。	
			・読み聞かせ活動の工夫 ・芸術的感性への刺激 ・自然・栽培体験の充実	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 3 80%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 2 70%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答 1 60%以上の児童が「本や絵や音楽、自然が好きです」と回答	3	読書においては習慣化の二極化、読書分野の偏りが課題である。	A	読書週間を起点に全校的な取組の工夫を図っていきたい。	
			・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	3	4 90%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 3 80%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 2 70%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 1 60%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答	3	児童主体の活動がレジリエンスの育成につながっているかは検証が必要。	A	レジリエンスの育成は一朝一夕ではできないものの、今後も意図的な継続を続けていく。	
		最後まであきらめない心(レジリエンス)の醸成	・児童主体の活動保証 ・形成的評価の充実 ・継続的な活動の工夫	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	3	4 90%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 3 80%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 2 70%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答 1 60%以上の児童が「決めたことは最後まで頑張り続けることができる」と回答	3	児童主体の活動がレジリエンスの育成につながっているかは検証が必要。	A	子供中心の遊びや食育からあきらめない気持ちちは育める。学年差が出ないようにしてほしい。	
			・体育の授業改善 ・元気アップガイドブック活用 ・体育朝会の活用	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	3	4 90%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 3 80%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 2 70%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答 1 60%以上の児童が「休み時間や体育で遊んだり体を動かしている」と回答	2	保護者啓発も含めて、活動の周知が弱い。「遊び」を中心とした実働は増えている	A	自由な遊び中心を軸としつつ、計画的で統率された活動も増やしていく。	
			・GM60の推進 ・SNSルールの推進 ・食育の推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 3 80%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 2 70%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答 1 60%以上の児童が「学校で学んだ安全や知識を生活に生かしている」と回答	3	活動が日常化している分、惰性に流れている。インパクトある取組に変えていく。	A	GM60等生活習慣改善は継続に意味があると考える。食育は新たな取組を検討したい。	
		自らの健康を保持・増進する生活習慣の定着	・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	4	高評価に甘んじることなく、少数でも不安をもつ児童に寄り添っていく。	A	いつでも・どこでも・誰にでも相談できる体制をさらに周知徹底していく。	
			・いじめ防止の推進 ・安全(交通・生活・災害)教育の推進 ・SOSの出し方教育推進	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 3 80%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 2 70%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答 1 60%以上の児童が「学校で落ち着いて安心して生活している」と回答	3	自己有用感の育成を目標にしたが、明確な活動ができなかったと反省する。	A	自己肯定感の向上を目指し、周囲の役に立つ喜びを得られる取組を工夫していく。	
			・外部人材の活用 ・行事への主体的な参加 ・自ら企画する機会の保証	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	4	4 90%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 3 80%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 2 70%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答 1 60%以上の児童が「人や行事に関わるのは楽しい」と回答	3	人との交流は多かったが、地域行事と関わる機会が少なかった。	A	PTA、地区委員会、青少年委員の活動を対象に、より積極的な連携を図る。	
輝く未来	非認知能力の育成	他者や地域と「つながる」喜びの実感	・ヤマリノブルハーブの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	3	4 90%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 3 80%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 2 70%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 1 60%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答	2	キャリアアルバムの活用は定着したが、自己を見つめる意識につながっていないことが課題。	B	キャリアアルバムを形成的に活用することで、自己を見つめる力との関係性を向上させる。	
			・ヤマリノブルハーブの活用 ・道徳の授業改善 ・学習の自己評価活動	4 概ね3項目に取り組むことができた 3 概ね2項目に取り組むことができた 2 概ね1項目に取り組むことができた 1 全く取り組めなかつた	3	4 90%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 3 80%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 2 70%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答 1 60%以上の児童が「今の自分や、将来の自分を考えることがある」と回答	2	キャリアアルバムの内容を子供が真に理解しているか。道徳の授業がよかつた。研究発表の教訓を明確に。	B	キャリアアルバムを形成的に活用することで、自己を見つめる力との関係性を向上させる。	

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	人も自分も大切に、みんなが輝く成隣小
			互いを認め合い協力し合いながら課題を解決し、児童一人一人が前向きに学校生活を送っている。
			自身の知識・技能の向上に努め、学校の実践力、「チーム成隣」としての組織力を向上させている。

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	◎主体的に学習に取り組む児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	児童の学習に対する目的意識を大切にし、自身の学びを実感できる授業を実施する。	学習のあての提示、振り返りを実施し、児童が何を学んだか自覚できるようにする。	4 全12学級でどちらも実施した。	4	4児童アンケート「すすんで学習」9.5割以上	3	全学級担任・専科の授業で何を勉強するのか「めあて」を示し、何を学んだか「振り返る」授業を実施している。	B	明確な「めあて」の提示。「振り返り」の実施に加え、「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」等の視点から授業改善を図る。	
				3 11学級でどちらも実施した。		3児童アンケート「すすんで学習」9割以上					
				2 8学級以上でどちらも実施した。		2児童アンケート「すすんで学習」7割以上					
				1 8学級未満しか実施できなかった。		1児童アンケート「すすんで学習」7割未満					
	質の高い個別指導・家庭学習を行う。	家庭学習チェック表を活用し、児童の学びの習慣化と個別の対応を工夫する。	4 家庭学習チェックと個別の対応を全12学級で実施した。 3 家庭学習チェックと個別の対応を11学級で実施した。 2 家庭学習チェックと個別の対応を10学級で実施した。 1 家庭学習チェックと個別の対応を9学級以下で実施した。	4 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価8割以上	4	4保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上	2	全担任が児童の家庭学習の実施状況を把握し必要に応じて個別対応を実施している。	B	引き続き、家庭学習の内容について以下を実施。①学年で内容を検討②個別対応が必要な場合は学年の担任間で対応内容を共有	
				3 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価7割以上		3保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上					
				2 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割以上		2保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価5割未満					
				1 保護者アンケート「家庭学習の習慣」肯定的評価6割未満							
	「昭島市立小学校ユニバーサルデザイン(UD)」を活用した日常活動や授業における指導・支援を進める。	市のユニバーサルデザイン(UD)の冊子を活用し、適切な環境づくりをする。	4 全教室で冊子のUDチェックを年11回以上実施した。 3 全教室で冊子のUDチェックを年10回以上実施した。 2 全教室で冊子のUDチェックを年9回以上実施した。 1 全教室で冊子のUDチェックを年8回以上実施した。	4児童アンケート「授業分かりやすい」9.5割以上	4	4児童アンケート「授業分かりやすい」8.5割以上	3	市のユニバーサルデザイン(UD)の冊子を活用し、全教室で適切な環境をづくりを行っている。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、特別支援教育の視点から教員の授業改善を図るようにする。	
				3児童アンケート「授業分かりやすい」8.5割以上		3児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上					
				2児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上		2児童アンケート「授業分かりやすい」8割以上					
				1児童アンケート「授業分かりやすい」8割未満							
豊かな心	◎互いを認め、協力し合う児童の育成する。 ・児童の言語環境を整え、人権感覚を高める。 ・互いを認め合い、物事を共に創造する体験的な活動を重視する。 ・互に支え合う、よりよい関係を大切にした活動を重視する。	○道徳科の授業を要とし、特別活動や学校行事の参考・再興をとおして児童の人間力を育成する。	児童に活動のねらいや目的を明確にもたせるとともに、事後に互いを認め合うことができる振り返りの場を設ける。	4 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を全12学級で実施した。 3 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を10学級以上で実施した。 2 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級以上で実施した。 1 道徳科の特質に即した授業と特別活動や学校行事を9学級未満で実施した。	4児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	4	4児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	4	学校行事においては活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせて指導にあたっている。	B	道徳の授業と学校行事の関連を捉えた指導計画を再編成し、道徳の授業内容と学校生活の振り返りが円滑に行われるようする。
				3児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	3児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。						
				2児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。	2児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割以上。						
				1児童アンケート「自己肯定感」の肯定的評価7割未満。							
	児童が個々のよさを發揮し成長できる学級集団・学年集団を形成する。	リーダーシップとフローラーシップを理解させ、自己の成長をキャリアパスポートに記録させる。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価9割以上。	4	4保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。	3	学級での係活動、たてわり班活動、遠足、宿泊行事、運動会等を通して、互いを支え合ってよい人間関係を築いている。	B	特別活動のねらいを明確にした指導と活動の振り返りを充実させ、児童自身が自己の成長を認識できるようにする。	
				3保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価8割以上。		3保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。					
				2保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。		2保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割以上。					
				1保護者アンケート「児童の自己肯定感」の肯定的評価7割未満。							
	児童の言語環境を整え、いじめ問題の未然防止と早期解消に全職員で取り組む。	「人権教育プログラム」「いじめ総合対策」を活用していじめ未然防止に関する授業を実践する。	4 年6回以上実施した。 3 年4～5回実施した。 2 年3回実施した。 1 年1～2回実施した。	4児童による評価で「相談できる大人がいる」95%以上	3	4児童による評価で「相談できる大人がいる」80%以上95%未満。	2	「ふれあい月間」の取組を通じて、言葉遣いの指導と、いじめ未然防止の授業を実践している。スクールカウンセラーの活用を推進する。	B	外部講師を招いて「ふれあい月間」と連動した研修を行い、教員の生活指導観を向上させる。	
				3児童による評価で「相談できる大人がいる」80%以上95%未満。		3児童による評価で「相談できる大人がいる」50%以上80%未満。					
				2児童による評価で「相談できる大人がいる」50%以上80%未満。		2児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満。					
				1児童による評価で「相談できる大人がいる」50%未満。							
健やかな体	◎心身を鍛え正しい判断で行動する児童の育成する。 ・児童による目標の設定と振り返りを重視し、基礎的な知識及び技能を習得させる。 ・児童一人一人への注目と成長を支援する。 ・経験や体験を深める活動を重視する。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用するとともに、休み時間や放課後の外遊びが増えよう声掛けを行う。	4 全12学級で実施した。	4	4体力調査のA、B判定の児童が9割以上。	3	今後も熱中症と感染症の対策を講じながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れる。	B	熱中症対策を取りながら、休み時間や放課後の校庭遊びを励行する。また、体育の導入時に動的な運動を取り入れて改善を図る。	
				3 11学級で実施した。		3体力調査のA、B判定の児童が8割以上9割未満。					
				2 10学級で実施した。		2体力調査のA、B判定の児童が7割以上8割未満。					
				1 9学級で実施した。		1体力調査のA、B判定の児童が7割未満。					
	健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	元気アップガイドブックを活用するとともに、健康教育を推進する。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施した。 3 健康教育の授業を年2回実施した。 2 健康教育の授業を年1回実施した。 1 健康教育の授業を実施できなかった。	4グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	4グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。	3	グッドモーニング60分の取組を継続するとともに、養護教諭が中心となり健康診断時に心身の健康について指導する。	B	グッドモーニング60分の取組を継続する。PTA活動とも連携して講師を招くなど、健康教育を保護者に啓発する。	
				3グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。		3グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
				2グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。		2グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
				1グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。							
	健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	年3回食育の授業を行い、指導内容を保護者に伝え、児童に対する家庭での働きかけを依頼する。	4 全12学級で実施した。 3 11学級で実施した。 2 10学級で実施した。 1 9学級で実施した。	4保護者アンケート「食育」肯定的評価7割以上	3	4保護者アンケート「食育」肯定的評価6割以上	3	全学級で食育に関する授業を実施している。お弁当日のに合わせて学校だより等でも意義について保護者に伝えている。	B	全学級で食育に関する授業や給食指導を継続する。栄養士による指導については事後指導を丁寧に行う。	
				3保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上		3保護者アンケート「食育」肯定的評価5割以上					

学校教育目標	○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】	人とのつながりを大切にして魅力ある学校をつくる。				
			【目指す児童・生徒像】	「た・な・か」の子 【 た:たくましい子 な:仲良くする子 か:かしこく考える子 の:のびる子 こ:個性豊かな子 】				
			【目指す教師像】	「た(Timemanagement=時間管理)・な(Navigator=誘導者・航海士)・か(kindness=思いやり・親切)」を意識し職務を励行する教師				

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本を大切にかかる授業を実践し、主体的・意欲的に学び、基礎的な知識及び技能等を確実に習得させる。	個々の学習状況を正しく把握し、読む・書く・計算する力を身に付けさせる。	授業、ベーシックドリル、ぐじらーニング、日常の小テスト、力試し、補教教室、宿題・家庭学習等の充実。	4 漢字、計算の定着が85%以上 3 漢字、計算の定着が82%以上 2 漢字、計算の定着が80%以上 1 漢字、計算の定着が80%未満	4	4 全国学力 国・算平均 -1.5pt 3 全国学力 国・算平均 -2.0pt 2 全国学力 国・算平均 -3.0pt 1 全国学力 国・算平均 -3.0pt未満	4	6年生は全国2教科平均よりも1.6P上まわった。次年度以降も継続よう、指導力向上を目指していきたい。	その年の児童の実態により数値は上下する。一喜一憂せず、適切な指導をお願いする。	A	これからも基礎基本の学習の徹底を継続とともに、協働的な学び、個別最適な学びをさらに推進していく。
		特別支援教育を充実させ、どの子にも分かりやすい授業を実践する。	市のユニバーサルデザイン(冊子)を活用するとともに、適切な環境づくりをする。	4 全校で冊子のUDチェック実施11回以上 3 全校で冊子のUDチェック実施10回以上 2 全校で冊子のUDチェック実施9回以上 1 全校で冊子のUDチェック実施年9回未満	4	4 児童評価 分かりやすい授業97%以上 3 児童評価 分かりやすい授業95%以上 2 児童評価 分かりやすい授業90%以上 1 児童評価 分かりやすい授業90%未満	2	児童評価「分かりやすい授業」の肯定的回答は91ptであった。指導方法・環境の改善が必要である。	育休代替の未配置で本来できる教育活動ができないこともある。教員確保が喫緊の課題である。	B	人材不足の中でも児童の学びと成長を担保できる組織づくりを工夫していく。
		学年相当の時間(学年×10分)に基づいた家庭学習を推進させる。	自己の課題克服グットライフ調査宿題+自学自習	4 各学年家庭学習実施率91%以上 3 各学年家庭学習実施率86%以上 2 各学年家庭学習実施率81%以上 1 各学年家庭学習実施率81%未満	4	4 各学年家庭学習取組率90%以上 3 各学年家庭学習取組率86%以上 2 各学年家庭学習取組率81%以上 1 各学年家庭学習取組率81%未満	4	児童、学級、家庭の実態を考慮しながら推進することができたが、習慣化が課題である。	家庭学習は定着している。課題の量や内容が学級により偏りが見られる。	B	学級の実態を考慮しながら課題の量や内容が適切かどうか検証し、習慣化をさせていく。
豊かな心	人権意識を高め、自己を尊重する態度を醸成するとともに、集団の一員である自覚、規範意識等を育てる。	児童の道徳的実践力を高める。	道徳科の特質に即した授業を行うとともに、全教育活動を通して道徳教育を推進する。	4 特質に即した道徳授業を全学級で実施 3 特質に即した道徳授業を9割の学級で実施 2 特質に即した道徳授業を8割の学級で実施 1 特質に即した道徳授業を7割の学級で実施	4	4 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価9割以上 3 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価8割以上 2 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価7割以上 1 児童評価「自己肯定感」の肯定的評価7割未満	4	自分や友達を大切にしているとの肯定的回答が96Ptと高かった。	心の教育はとても大事である。これからもしっかりと取り組んでいって欲しい。	B	令和6年度は道徳科を研究教科として道徳教育の充実を図っていく。
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用して人権感覚チェックを年3回以上実施する。	4 年3回以上実施した 3 年2回実施した 2 年1回実施した 1 実施できなかった	4	4 児童評価「相談できる先生がいる」90%以上 3 児童評価「相談できる先生がいる」75%以上 2 児童評価「相談できる先生がいる」55%以上 1 児童評価「相談できる先生がいる」55%未満	3	相談できる先生がいる回答した児童が89%未満は課題である。次年度は90%達成を実現できるよう児童理解に努める。	とても児童に寄り添ってくれる教員が多い。今後もよろしくお願いたい。	A	待つ・聞く・受け止める姿勢で児童が相談しやすくなるような関係性を構築していく。
		学校生活をより楽しいものにする。	授業、特別活動、交流活動・交友活動の充実	4 楽しくする工夫をしている90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満	3	4 学校生活は楽しい95%以上 3 学校生活は楽しい90%以上 2 学校生活は楽しい85%以上 1 学校生活は楽しい85%未満	4	委員会活動やたてわり活動では、新しい発想の工夫で、更に意味のある活動ができることが分かった。次年度も継続していく。	あおば(通常)・ふたば(知)・わかば(情)の交流推進と多様性を認められる児童の育成を願う。	A	これからも新しい発想を大にして、楽しく学べ、成長を自覚できる田中小学校をつくる。
健やかな体	日常的な運動を通して体力を向上させるとともに、健康で安全な生活のために必要な生活習慣や食習慣を身に付けさせる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用して体力向上のための体育的な活動を行う。	4 児童評価「運動に意欲的」の評価9割以上 3 児童評価「運動に意欲的」の評価8割以上 2 児童評価「運動に意欲的」の評価7割以上 1 児童評価「運動に意欲的」の評価7割未満	4	4 体力調査のA、B判定の児童が6割以上 3 体力調査のA、B判定の児童が5割以上 2 体力調査のA、B判定の児童が4割以上 1 体力調査のA、B判定の児童が4割未満	3	児童の体力が回復傾向にある。元気アップGBや外遊びの推進で体力向上を推進していく。	これからも継続して、外遊びの大切さをもっと意識させたい。	A	元気アップGBの更なる活用と、体育学習、外遊びの充実を図り、体力向上を目指す。
		健康で安全な生活のために必要な生活習慣を身に付けさせる。	グッドモーニング60分(GM60分)を推進して健康教育を行う。	4 健康教育の授業を毎学期・年3回以上実施 3 健康教育の授業を年2回実施 2 健康教育の授業を年1回実施 1 健康教育の授業を未実施	4	4 GM60分達成率が全児童の9割以上 3 GM60分達成率が全児童の7割以上 2 GM60分達成率が全児童の5割以上 1 GM60分達成率が全児童の5割未満	3	放課後が多忙な高学年児童の達成率が上がらない。発達段階に合わせた指標も必要である。	とても意義のある取組だと思う。今後も、継続して取り組ませていただけると良い。	B	専門機関との連携を確立させるとともに、GM60分の推進を図る。
		健康で安全な生活のために必要な食習慣を身に付けさせる。	望ましい食習慣を身に付けるための給食やお弁当(食育)の日の指導を推進する。	4 食育の指導を毎学期・年3回以上実施 3 食育の指導を年2回実施 2 食育の指導を年1回実施 1 食育の指導を未実施	4	4 食育の目標を達成した児童が9割以上 3 食育の目標を達成した児童が8割以上 2 食育の目標を達成した児童が7割以上 1 食育の目標を達成した児童が7割未満	4	コロナウイルスが5類へ移行し、今後は更なる食育の推進を図っていく。	食事は楽しい場であつて欲しい。会食としての給食にも取り組んで欲しい。	B	残菜率は2.5%で、昨年度同様に少ない。フードロスの学びを深め、次年度も継続できるよう取り組んでいく。
輝く未来	地域・家庭との信頼関係を構築するとともに、児童の豊かな人間性や人間関係調整力を高める教育活動を推進する。	将来の夢を児童にもたらせる。	職場体験、キャリア・パスポート、家族の職業について理解を深めさせる。	4 生き方について考える機会を与えた70%以上 3 生き方について考える機会を与えた60%以上 2 生き方について考える機会を与えた50%以上 1 生き方について考える機会を与えた50%未満	4	4 将来について考えることがある90%以上 3 将来について考えることがある85%以上 2 将来について考えることがある80%以上 1 将来について考えることがある80%未満	4	キャリア・パスポートを活用して、将来の自分について考えていくようになる。	6年生の職場体験が復活できてよかったです。より一層のキャリア教育の充実を願う。	A	自分の将来像をイメージさせ、生涯学習の基盤となるキャリア教育をより一層充実させる。
		学校からの情報発信を積極的に行う。	学校便りの発行を月1回以上、HPの更新を月3回以上行って情報発信を行う。	4 8月を除く11ヶ月で実施 3 8月を除く10ヶ月で実施 2 8月を除く9ヶ月で実施 1 8月を除く8ヶ月で実施	4	4 保護者評価「分かりやすい情報発信」9割以上 3 保護者評価「分かりやすい情報発信」8割以上 2 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割以上 1 保護者評価「分かりやすい情報発信」7割未満	4	HPをリニューアルし、必要な情報が見つけやすくなったとの声が多数届いた。	メール配信は大変役に立っている。HPも更なる充実を期待する。	B	更に必要な情報をタイムリーに発信できるよう工夫をしていく。
	#REF!	#REF!	#REF!	4 #REF! 3 #REF! 2 #REF! 1 #REF!							

令和5年度

昭島市立拝島第一小学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画 年度末評価【総括表】

学校教育目標	○やさしく(徳) ○強く(体) ○よく考え(知)  手をつなぐ拝島の子	【目指す学校像】	○生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○働きがいのある学校(教職員にとって)□
		【目指す児童・生徒像】	○心身ともに健康な子 ○主体的・対話的で深い学びのできる子 ○互いに認め合い高め合う子
		【目指す教師像】	○教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的な方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策
確かに学力	主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善を行うとともに、「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現を目指す。	授業改善、評価の工夫、カリキュラムマネジメントの実施と、個別最適な学び、協働的な学びを目指す指導への挑戦	・ゴール(評価)を明確にし、逆算的に計画する学習展開の工夫 ・どの児童も参加しやすい間口の広い導入の工夫 ・教科横断的、問題解決的な学習 ・児童の実態把握、学力調査の分析、授業改善プラン作成・実践	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 92%以上の児童が授業に進んで取り組むと回答 3 82%~92%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 2 72%~82%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答 1 72%未満の児童が授業に進んで取り組むと回答	4	児童は、自分がおおむね進んで学習に取り組んでいると思っている。教員は、授業改善に前向きに取り組んでいるが、児童の学力向上が不十分に感じているところがある。児童の意欲の高まりを活かし、今後も具体的な授業改善案を考え、取り組んでいく必要がある。	・児童が充実して取り組める内容になっているところは評価できる。学力に表れるには時間がかかるかもしれない。 ・児童自身が進んで学習に取り組んでいる姿勢は素晴らしい。	B	次年度も、個別最適な学びを目指し、児童の主体的な学習となるよう、授業改善を図る。そのために、ねらいの明確な学習、振り返りを確実に行い、指導と評価の一体化を目指す。また、授業改善プランの作成と実施を具体的なものとし、成果を明らかにする。
			・実態に合った学習スタンダードの見直しと取組の徹底 ・内容や方法を工夫し、誰もが意欲的に取り組む学習への取組 ・読書範囲の取組の工夫 ・家庭学習の内容の工夫と習慣付け	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童が身に付いたと回答 3 80%~90%未満の児童が身に付いたと回答 2 70%~80%未満の児童が身に付いたと回答 1 70%未満の児童が身に付いたと回答	3	児童は、学習には意欲的に取り組んでいるが、十分に力が身に付いていると感じないことがわかる。教員も、基本的な学習習慣や読書の指導を行っているが、十分な成果を感じられないことがわかる。基礎学力の定着に向け、学習スタンダードや家庭学習について見直しを図り、実践していく必要がある。	・家庭学習や読書などの成果がすぐには表れないと思う。難しい課題だが、継続して取り組んでほしい。 ・教員の工夫が児童の興味につながっていることから、今後に期待できる。	C	次年度も、朝自習や家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着の手助けをする。児童自身が、反復練習を通して力がついたことを実感できるよう工夫する。また、本を読む習慣が身に付くよう、引き続き指導を行う。
			・個人に応じた指導及びUDを意識した学習展開(焦點化・視覚化・共用化) ・UD意識した学習環境の整備(板書・見通し・掲示刺激・机上整理) ・因り感をもつ児童への個別の対応 ・保護者との共通理解	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 92%以上の児童が授業が分かると回答 3 82%~92%未満の児童が授業が分かると回答 2 72%~82%未満の児童が授業が分かると回答 1 72%未満の児童が授業が分かると回答	4	児童は、先生方の指導の工夫におおむね満足していることがわかる。教師も、おおむね特別支援に関する指導の工夫を行なうことができていると感じている。 因り感をもつ児童の対応に苦慮していることは事実で、学校全体で、個別のケースに合わせて対応を考える場を充実させる必要がある。	・外部からの情報等が得られる分野だと思う。使える資源を使う工夫が起きると思う。	B	次年度も、教室環境の整備、焦点化・視覚化・共用化を意識した学習展開を行い、児童にとってわかりやすい学習を目指す。また、因り感をもつ児童について、特別支援教室の担任とも情報交換を通して、より具体的な個別の対応をしていく。
			・よさを認め、互いに必要とされる実感がある学級経営 ・価値を明確にした授業づくりと、自己と向き合う学習展開の工夫 ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動に連携付けた指導	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 92%以上の児童が大切さを学ぶことができたと回答 3 82%~92%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 2 72%~82%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 1 72%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答	4	児童は、おおむね自分も友達も大切にしていると感じている。教師も、道德の学習の質の向上を目指し、研鑽に励んでいる。ただ、日常生活の中で、友達とのトラブルは起こることが多く、ケースに応じて素早く対応しているが、学校生活の様々な場面で、引き続き子供たちの人を思いやる心を醸成する必要がある。	・児童が自分を振り返り評価できる力を付けているのはよいことと思う。 ・道徳の学習等で学んだことを自らの学校生活で実践しようしたり、豊かな心を育む活動として評価できる。	B	児童同士が、お互いのよさに気付く取り組みや、共に活動することを通してよさに気付く機会を意図的に計画し、仲間意識を高め、大切な存在であるを感じられるよう、ねばり強く指導を続けていく。また、自身の想いを素直に表現できる環境を整えていく。
		自分も仲間も大切にし、お互いのよさを認め合い、相手を思いやる心を育て、楽しい学校生活を実感し、自己的生き方を深めることのできる児童の育成を目指す。	道徳授業の質の向上を図り、自ら考え、日常生活に活かし、互いに認め合う児童の育成	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	4	4 92%以上の児童が大切さを学ぶことができたと回答 3 82%~92%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 2 72%~82%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答 1 72%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答	4	児童は、おおむね自分も友達も大切にしていると感じている。教師も、おおむね特別支援に関する指導の工夫を行なうことができていると感じている。	・児童が自分を振り返り評価できる力を付けているのはよいことと思う。 ・道徳の学習等で学んだことを自らの学校生活で実践しようしたり、豊かな心を育む活動として評価できる。	B	児童同士が、お互いのよさに気付く取り組みや、共に活動することを通してよさに気付く機会を意図的に計画し、仲間意識を高め、大切な存在であるを感じられるよう、ねばり強く指導を続けていく。また、自身の想いを素直に表現できる環境を整えていく。
			いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く対応し、安心して通える学校運営の実現	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	4	4 92%以上の児童が判断できたと回答 3 82%~92%未満の児童が判断できたと回答 2 72%~82%未満の児童が判断できたと回答 1 72%未満の児童が判断できたと回答	4	児童は、おおむね善悪の判断を付けることができ、いじめはいけないと感じている。しかし、2割の児童は自信をもてていないことが分かった。教師も人権について細心の注意を図って児童と接している。今後も、善悪の判断、いじめはいけないと感じられていない児童の指導について検討していく必要がある。	・いじめの発見や対応に迅速に対応していること聞いて安心した。子供の心に残るようにならないよう、きめ細かく指導をしてほしい。	B	善悪の判断に自信のない児童や、いじめを止めることができない児童の心情に寄り添うためにも、日常から人権について考えさせ、誰もが不当に嫌な思いをしない環境を目指す。また、SNSの不適切な利用を防ぐためにも、年間計画にリテラシーの時間を十分に設ける。
			人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める実践への取組	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答 3 80%~90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 2 70%~80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答 1 70%未満の児童が体験学習は楽しいと回答	4	児童はおおむね人の間わりや自然体験に満足していることがわかる。教師も縦割り活動やゲストティーチャーによる指導に積極的に取り組んでいる。本年度は3年生で自治会の方と交流する機会をもつことができた。今後も、地域の方やゲストティーチャーと交流する場面を増やし、人とのかかわりの中で学ぶ本物体験を進めていきたい。	・地域との関係のよさがしっかり生かされている取り組みだと思う。	B	縦割り班活動をさらに充実した内容にするため、各学年の役割等も決めながら、リーダーとしての、ふるまいや、協力して取り組む楽しさをさらに味わわせたい。また、自然や文化についての学びを外部講師を通して学ぶ機会を増やしていくたい。
			・ゲストティーチャーによる学び・実践、体験的活動の充実・栽培体験活動の実施・縦割り班活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童が安全健康についていかすと回答 3 80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答 2 70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答 1 70%未満の児童が安全健康についていかすと回答	3	児童は、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いていないことがわかる。教師も縦割り班活動やゲストティーチャーによる指導に積極的に取り組んでいる。本年度は3年生で自治会の方と交流する機会をもつことができた。今後も、保健学習の充実や、児童が実感できる指導の工夫、保護者への協力を求める工夫が必要である。	・SNS、YouTubeの代わりになるものをたくさん提案できるといいと思う。やることがないから、安易に流れていると思う。	C	グッドモーニング60分の効果を高めたため、3年生の保健学習に養護教諭が参加したり、ノーメディアの効果を高めたために、代表委員会や保健委員会の活動を工夫したりして取り組ませたい。何よりも、自分たちで時間の管理ができるよう、日常的に指導を行う。
健やかな体	健康で安全な生活について自ら考え、仲間と協力して実践しようと挑戦する。心身ともに健康でたくましい児童の育成を目指す。	心身ともに健康で、安全に過ごすために、自己管理のできるたくましい児童の育成	・クリエイティブ60分の取組 ・ノーメディア習慣の取組 ・安全・防災教育の確実な実施とぶりかえりの実習 ・チャレンジ精神、ルール尊重、ファブレーの大切さを指導・実践	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童が安全健康についていかすと回答 3 80%~90%未満の児童が安全健康についていかすと回答 2 70%~80%未満の児童が安全健康についていかすと回答 1 70%未満の児童が安全健康についていかすと回答	3	児童は、基本的な生活習慣がしっかりと身に付いていないことがわかる。教師も縦割り班活動やゲストティーチャーによる指導に積極的に取り組んでいるが、十分な効果が上がっていない。今後も、保健学習の充実や、児童が実感できる指導の工夫、保護者への協力を求める工夫が必要である。	・元気アップガイドブックを使って、自分の体力の課題を知り、拌一小ピックで楽しく運動に取り組んでほしい。	B	体力調査の結果を基に、自身の体力について考える元気アップタイムの活用をさら工夫していく。また、運動の日常化につなげる校庭の利用について、アイデアを出し合い、場の設定などを工夫したい。
			一人一人が自らの体力を知り、自分に合った方法を考え、体力向上に取り組む児童の育成	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童が体力付いていると回答 3 80%~90%未満の児童が体力付いていると回答 2 70%~80%未満の児童が体力付いていると回答 1 70%未満の児童が体力付いていると回答	3	児童は、おおむね運動にすんなり取り組んでいると感じている。教師も元気アップガイドブックの活用の場面を設定したり、拌一小ピックの取組を活性化させ、縦割り班での運動遊びの場を設けたりすることができた。しかし、15%程度の児童が不十分に感じていることから、今後も苦手意識をもつ児童の意識改革に取り組んでいく必要がある。	・元気アップガイドブックを使って、自分の体力の課題を知り、拌一小ピックで楽しく運動に取り組んでほしい。	B	体力調査の結果を基に、自身の体力について考える元気アップタイムの活用をさら工夫していく。また、運動の日常化につなげる校庭の利用について、アイデアを出し合い、場の設定などを工夫したい。
			食の大切さや健康について学び、自らの健康について考えることのできる取組	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童がお弁当の日工夫できたと回答 3 80%~90%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答 2 70%~80%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答 1 70%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答	3	児童は、おおむね食に関する学びを生活に活かしていると感じている。教師も給食指導や保健指導を通して食や健康についての指導に力を注いでいる。お弁当の日にに関しては、保護者の協力もありまくっているが、家庭によっては子供との交流が難しい場合もあるため、給食課とも連携して、食育指導を進めていく必要がある。	・お弁当作りは大変だが、親子で協力して作ることは大切な取組だと思う。	B	安全指導の年間計画を適切に実施することで、また、避難訓練や防災訓練を通して、自らの行動を考える機会を儲け、自ら考え行動できる力を養えるよう工夫したい。さらに、保健指導や保健学習を通して、自身的な安全について考える機会を適切にもちたい。
			・お弁当の日に自ら考え取り組む ・保健指導から、自分の体についての学び・健康教育(性犯罪等)への取組 ・外部人材を招聘しての交流や講話や実技指導の取組	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 90%以上の児童がお弁当の日工夫できたと回答 3 80%~90%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答 2 70%~80%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答 1 70%未満の児童がお弁当の日工夫できたと回答	3	児童は、おおむね食に関する学びを生活に活かしていると感じている。教師も給食指導や保健指導をしていて、お弁当の日にに関しては、保護者の協力もありまくっているが、家庭によっては子供との交流が難しい場合もあるため、給食課とも連携して、食育指導を進めていく必要がある。	・お弁当作りは大変だが、親子で協力して作ることは大切な取組だと思う。	B	安全指導の年間計画を適切に実施することで、また、避難訓練や防災訓練を通して、自らの行動を考える機会を儲け、自ら考え行動できる力を養えるよう工夫したい。さらに、保健指導や保健学習を通して、自身的な安全について考える機会を適切にもちたい。
輝く未来	自分のよさを見付け、仲間と協力して活動し、苦手なことにも失敗を恐れず取り組み、役に立つ喜びを自信につなげ自己肯定感を高め、未来に向けて夢と希望をもち実現しようと努力する児童の育成を目指す。	学級会活動をはじめ、全教育活動における、キャリア教育の充実	・学校生活への連絡 ・仲間づくり、集団の結束 ・自らの役割の自觉 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実(キャリアルームの活用)	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3項目は取り組むことができた。 2 2項目は取り組むことができた。 1 1項目しか取り組めなかった。	3	4 92%以上の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答 3 82%~92%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答 2 72%~82%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答 1 72%未満の児童が生活を振り返り、よりよくしようと回答	3	児童はおおむね自分の生活を振り返り、よりよくしようと努力していることがわかる。教師も仲間づくりや集団作りの工夫を行い、学級活動において自分の役割を意識させ、学級の仲間と課題の解決に取り組むことができた。今後も、キャリアルームを通じて自己を見つめ、よりよく生活していく意欲を高める工夫が必要である。	・自分自身をよくしたいと考える児童が大変多いという結果は素晴らしい。それこそが「輝く未来」の源であると感じた。その思いを勇気づける指導を高めていきたい。教師の熱意に期待する。	B	学級活動を通して、問題解決を行い、よりよい学校生活を実現する力を高めていたい。また、クラブや委員会活動でも、自分たちのために学校のためにも、よりよいものを実現するために、活動を工夫する組みを児童に提案していきたい。
			・スタートカリキュラムの理解と推進 ・年3回の中学校区の計画的な交流活動 ・中連携の具体的な方策の検討・実践 ・幼・保・小・中の連携、交流活動	4 4項目全て取り組むことができた。 3 3							

令和5年度

昭島市立拝島第二小学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校			
			【目指す児童・生徒像】	○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これから社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～			
			【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団			

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分類	学校関係者評価	評価	次年度への改善策	
確かな学力  (知) 自ら学び考え判断し、 協働して問題を解決す ることができる児童の 育成	「拝二小授業力スタンダード20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるよ うに指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査(プレ・ポストテスト)のAB層を引き上げ、CD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「3%のA層の増加と5%のD層の減少 3 「2%のA層の増加と4%のD層の減少 2 「1%のA層の増加と3%のD層の減少 1 「0%以下のA層の増加とD層の減少	4	拜二小授業力スタンダードver.4を基に全教員が授業を実施した結果(92ポイント)成績指標の基となるポストテストは月に実施予定であり、その結果を評議員の方々に示し、今後の具体的な方策を立てます。東京都平均以上の得点がとれたことは評価できる。	A	拜二小授業力スタンダードver.4を基に全教員が授業を実施した(92ポイント)成績指標の基となるポストテストは月に実施予定であり、その結果を評議員の方々に示し、今後の具体的な方策を立てます。東京都平均以上の得点がとれたことは評価できる。	A	拜二小授業力スタンダードver.4を基に全教員が授業を実施する。誰も取り残さない」という理念を大切にすると共に、授業改善推進拠点校の取組を、3年間の取組だけで終わらせることなく、継続していくことで誰かが学力を伝達させる必要がある。	
			言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	授業改善推進拠点校の研究を令和3年度から3年間実施してきた。その取組の中で、10チャレをはじめ、文章表現を児童がする前に、教員が文章表現のプロセスを理解した適切な指導を授業全般を通して実践していく。	B	10チャレをはじめ、文章表現を児童がする前に、教員が文章表現のプロセスを理解した適切な指導を授業全般を通して実践していく。	B	10チャレをはじめ、文章表現を児童がする前に、教員が文章表現のプロセスを理解した適切な指導を授業全般を通して実践していく。
			学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	全教職員が主に学びのツバメ(アルマ)や、その中の学習概念において「授業で学んだことを生活に生かす」という意図に基づいて指導してきた。しかし、成績指標(75ポイント)はまだ、改善の余地があることを示唆している。	B	学んだことを児童が、いかに生活に生かそうとするのか、昭島市民科を中心に据えて、各教科、特別活動、特別な教科 道徳を通して指導していく。また、校内研究の中心テーマに設定し、全校を挙げて取り組む必要もある。また、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。	B	学んだことを児童が、いかに生活に生かそうとするのか、昭島市民科を中心に据えて、各教科、特別活動、特別な教科 道徳を通して指導していく。また、校内研究の中心テーマに設定し、全校を挙げて取り組む必要もある。また、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。
豊かな心  (情) 自らのよさを見つめ、 他者を尊重し、共によ りよく生きようとする 児童の育成	不登校児童を減らし、すべての児童が安心して登校できる学校にする。	不登校児童を減らし、すべての児童が安心して登校できる学校にする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「いじめ・暴力の未解決0件 3 「いじめ・暴力の未解決1件 2 「いじめ・暴力の未解決2件 1 「いじめ・暴力の未解決3件	3	いじめ・不登校対策委員会を毎月設定し、個別の案件に対して、きめ細かに対応させていているが、未解決の案件がある。また、解決した案件においても、継続して注意を払っていく必要がある。	B	前年と比較して、いじめの件数が減少したことはよいが、0を目指していくことを臨む。	B	不登校児童に対しては継続して、児童と社会のつながりが断たれることのないように全教職員で取り組んでいく。また、いじめに関する案件においては、解決したものに対しても継続して注視していく。	
			「拝二小学級力スタンダードver.2」を基に、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 「自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	児童会活動や児童会選挙、また、各行事において、実行委員会を設置し、児童が中心となって学校を創っていく機会を設けてき成績が表れている。また、学級力スタンダードver.2を活用し、学級も児童が考へ、課題を見直し改善する機会を設けてきた。	A	本校は児童会選挙もあり、児童の「学校を創っている」意識は高いと考える。	A	今後も、左記の取組を継続すると共に、更なる児童中心の学校作りをすすめていく。
			学校の決まりを守る風土を創り上げる。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 「学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 「学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 「学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	年度や学期の始めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を指導している。また、問題行動が見られた際ににおいても、決まりの意味や意義を児童に説いている。	A	校内では児童は、きまりを守って行動している。家庭との連携を今以上に深めていくことで、一層の効果が望める。	A	教職員と児童とで、きまりの意味を考えるだけでなく、さらに、児童会や児童相互でお互いが過ごしやすい学校を作り上げていくことができるよう、一層指導をしていく。
健かな身体  (体) 自らすんで心と体を きたえ、たくましく生き る児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	コオーディネーショントレーニング及び、拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 「運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 「運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 「運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	コオーディネーショントレーニングは体育科の授業に浸透させていく結果は表れている。	A	本校の体力向上は、他校と比較しても高いことが分かる。現状をいかに維持し、さらなる向上を目指すか検討を要する。	A	コオーディネーショントレーニングを、さらに体育の授業に浸透させていくために、拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2の共通実践を進めしていく。	
			児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「Tスコアを都平均以上にする。 3 「Tスコアを都平均にする。 2 「Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 「Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4	「元気アップカード」の活用と体力テストの振り返り、また朝のラジオ体操、コオーディネーショントレーニングの実践が結果につながっています。Tスコアは、ほとんどの学年で全国平均を上回っている。	B	今までの取組が結果に結びついでいるため、体育部を中心に、さらなる工夫改善をしていく。	B	今までの取組が結果に結びついでいるため、体育部を中心に、さらなる工夫改善をしていく。
			家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「生活改善を実感する児童70%以上 3 「生活改善を実感する児童60%以上 2 「生活改善を実感する児童50%以上 1 「生活改善を実感する児童50%未満	4	結果よりグッドモーニング60分の取組は、全教職員に浸透しているとは言えない。また、生活改善を実感している児童の増加が見られない。	B	全教職員への周知が必要である。	B	体育部と保健部で協力したグッドモーニング60分の取組が令和5年度より始まったことから、保健部の「すっきりカード」と体育部の「元気アップカード」を活用して生活習慣の改善を保護者の協力も得ながら推進していく。
輝く未来  (意) 自らすんで挑戦し、 最後までやり遂げるこ とができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「地域に愛着をもつ児童70%以上 3 「地域に愛着をもつ児童60%以上 2 「地域に愛着をもつ児童50%以上 1 「地域に愛着をもつ児童50%未満	4	本校児童の地域に対する愛着は、全国学力・学習状況調査の結果からも強いことが分かっています。また、その愛着の高まりが、毎年、向上していることがよい。	A	昭島市民科の授業実践が、さらに定着するように、本校では市民科週間を毎学期設定し、その学習の成果を発表する機会を設けています。その取組を今後も継続していく。	A	昭島市民科の授業実践が、さらに定着するように、本校では市民科週間を毎学期設定し、その学習の成果を発表する機会を設けています。その取組を今後も継続していく。	
			●SDGsの達成のために社会を変革する主導者として、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。(感染状況による)	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「社会貢献しようと考える児童70%以上 3 「社会貢献をしようと考える児童60%以上 2 「社会貢献をしようと考える児童50%以上 1 「社会貢献をしようと考える児童50%未満	4	昭島市民科の学習では、広い視野をもって、身近な家庭や地域から社会を、より良い方向に変えていくことを学ぶ内容を設定している。また、教職員も昭島市民科を通じて、地域に根ざした授業展開や学習内容を設定していることがその要因であると考えられる。	A	関心から、実際の行動へつなげていくことを意識的に指導計画に盛り込んでいることは評価できる。	A	昭島市民科の学習において、地域貢献に結びつくところまで計画を修正していく必要がある。
			体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4	4 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 「将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	3	取組指標である教員の指導において、体験活動を重視していることが結果として出ているが、成果指標に盛り込んでいることは評価できる。	B	東京交響楽団を招聘し、体験活動ができたことなど、児童に様々な体験活動ができる機会を、今後も提供できるようにしてほしい。	B	児童が将来に対して、より夢や希望がもてるよう、家庭と学校での連携の在り方を検討する。

学校教育目標	○かしこ ○やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】	・子供にとって安全・安心の学校 ・保護者や地域とともに子供を育てる学校 ・教職員が互いに高め合う学校
			【目指す児童・生徒像】	・よく考え工夫する児童 ・相手のことを考え、助け合う児童 ・明るく元気な児童
			【目指す教師像】	・質の高い指導を創造できる教師 ・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師 ・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます		学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	①「問題解決の型」の徹底 ②「学習スタンダード」の徹底 ③朝学習の週5回実施 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、児童が主体的な授業を行った 3 8割以上の教員が、児童が主体的な授業を行った 2 7割の教員が、児童が主体的な授業を行った 1 児童が主体的な授業を行った教員が7割以下であった	4 児童アンケートで「主体的に学習した」が8割以上 3 児童アンケートで「主体的に学習した」が7割以上 2 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割以上 1 児童アンケートで「主体的に学習した」が6割未満	4 11月の調査で主体的に学習したと回答した児童は92.4%となり、1学期より20ポイント以上、上昇した。	1学期より20ポイント以上アップしたことは素晴らしいことである。	A	高学年を中心に教科担任制を推進し、専門性を高めた教科指導を行う。	
			授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業 ④本領発揮プログラムの活用	4 ユニバーサルデザインチェックリストの全てに取り組んだ。 3 ユニバーサルデザインチェックリストの8割以上に取り組んだ。 2 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以上に取り組んだ。 1 ユニバーサルデザインチェックリストの7割以下にしか取り組めなかった。	4 児童アンケートで「分かりやすい」が8割以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が7割以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が6割以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が6割未満	4 全ての学級でユニバーサルデザイン化を推進し、児童アンケートで「分かりやすい」が91%となった。	誰にでも分かりやすいユニバーサルデザインの取組は評価できる。	A	本領発揮プログラムはじめとする具体的な方策の一層の徹底を推進していく。	
			タブレットPCの積極的な活用とキャリア教育の推進	①プログラミング学習に関する授業(年5回以上) ②キャリア・パスポートに関する指導(年3回) ③オンライン授業(年3回)	4 全ての教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 3 8割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 2 7割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。 1 6割の教員が、タブレットを用いたオンライン授業を行うことができる。	4 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が8割以上 3 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が7割以上 2 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割以上 1 児童アンケートでオンライン授業への肯定的な評価が6割未満	4 年3回のオンライン授業を実施した。アンケートでは84.3%の児童が肯定的な評価であった。	タブレットの活用をさらに推進してほしい。プログラミング推進も期待したい。	A	引き続きタブレットPCの積極的活用を推進する。	
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します		児童の自己肯定感を高め、個々の良さを發揮できるように、学級活動を実施する。	①校内研究の推進 ②生活スタンダードの徹底 ③QUテストの活用	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4 QUの結果で安定感のある学級が3割以上 3 QUの結果で安定感のある学級が2割以上 2 QUの結果で安定感のある学級が1割以上 1 QUの結果で安定感のある学級が1割未満	4 12学級中6学級が安定感のある学級であった。生活スタンダードの徹底により、学校がとても落ち着いている。	心身ともに成長する6年間、学校生活を通じて情緒を大切に育んでもらいたい。	A	具体的な方策の継続と共に挨拶運動の強化を行い、豊かな心の醸成に努めていく。	
			教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。	①道徳授業地区公開講座 ②評議にわけるOJT研修 ③児童が考え議論する道徳	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	4 児童アンケートで「学校が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「学校が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「学校が楽しい」が6割未満	4 児童アンケートでは90.4%の児童が「学校は楽しい」と回答している。1学期に道徳の評議に関するOJT研修を行った。	道徳を学校生活に結び付けていく細やかな指導に期待している。	A	児童が考え議論する道徳を推進する。	
			学校図書館を活用し、読書の啓発に取り組む。	①学校図書館の利用(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③人権教育を推進する図書の購入	4 全ての学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 3 8割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 2 7割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。 1 6割の学級が、週1回以上学校図書館を利用した。	4 8割の児童が年間20冊以上の本を借りた 3 7割の児童が年間20冊以上の本を借りた 2 6割の児童が年間20冊以上の本を借りた 1 年間20冊以上の本を借りた児童が6割未満	4 12月末時点で、一人平均25冊以上の本を借りた。	タブレットを使って電子図書を活用すると高学年の読書も増えるのではないか。	B	全体として図書館利用は順調であるが、高学年の貸出冊数が少ない傾向が続いている。高学年への働きかけを強化する。	
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます		運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進める。	①体力向上プラン(9月改訂) ②コロナ禍でも可能な運動の推進 ③運動週間(年3回) ④本領発揮プログラムの活用	4 全教員が体力向上プランを活用した指導を行った 3 8割以上の教員がプランを活用した指導を行った 2 7割以上の教員がプランを活用した指導を行った 1 7割未満の教員がプランを活用した指導を行った	4 児童アンケートで「運動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「運動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「運動が楽しい」が6割未満	4 児童アンケートでは81.8%の児童が「運動は楽しい」と回答している。	楽しいと感じていないおよそ2割の児童に楽しいと感じさせる取組に期待します。	A	体力向上プランを作成し、体力テストの課題に沿った系統的な指導を行っていく。	
			日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	①元気アップカードの活用 ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 3 8割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 2 7割以上の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 7割未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4 7割以上の児童が目標を達成している 3 6割以上の児童が目標を達成している 2 5割以上の児童が目標を達成している 1 5割未満の児童が目標を達成している	4 元気アップカードを活用した指導を実施し、10月16日に学校保健委員会を開催した。	中休みの有効利用や教師の声掛けなど工夫を感じる。更なる取組の推進を期待したい。	B	元気アップカードの活用の徹底を引き続き指導していく。	
			安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育む。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行つた 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行つた 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行つた 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行つた	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4 避難訓練の改善を行い、警察と連携した不審者対応訓練や管理職不在時を想定した訓練を行った。	中休みや多くの教員に周知しない訓練は緊張感があり効果的であった。	A	引き続き具体的な方策の徹底を図っていく。	
輝く未来	学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます		話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育む。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視 ③タブレットPCの活用	4 全ての学級が、タブレットPCでの意見共有を行つた 3 8割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行つた 2 6割以上の学級が、タブレットPCでの意見共有を行つた 1 タブレットPCでの意見共有を行つた学級が6割未満	4 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が8割以上 3 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が7割以上 2 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割以上 1 児童アンケートで「話し合い活動が楽しい」が6割未満	4 児童アンケートで94.1%の児童が「話し合い活動が楽しい」と回答した。タブレットPCの活用OJTも1学期に実施している。	話し合い活動が楽しいという評価が出ているのは素晴らしいと思う。	A	全ての学級がタブレットPCでの意見共有の授業を行うよう、引き続きICT活用推進に努める。	
			教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	①各学年で外部人材を活用した授業を計画 ②コロナ禍においても実現可能な交流プログラムの作成	4 全学年で外部人材を活用した授業を実施した 3 8割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 2 6割以上の学年で外部人材を活用した授業を実施した 1 外部人材を活用した授業を実施した学年が6割未満	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	3 全学年で外部人材を活用した授業を行うことができている。	外部人材はもちろん内部の人材もしっかりと活用できているのが素晴らしい。	A	引き続き具体的な方策の徹底を図っていく。	
			保護者や地域と連携し、行事活動を充実させる。	①PTAや地域と連携して運動会・学習発表会・研究発表会を行ふ。 ②PTAや地域と連携し安全見守り活動の強化を行う。	4 PTAや地域と年4回以上の連携ができた。 3 PTAや地域と年3回以上の連携ができた。 2 PTAや地域と年2回以上の連携ができた。 1 PTAや地域との連携は年2回以下だった。	4 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価8割以上 3 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価7割以上 2 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以上 1 保護者による学校評価(関係項目)肯定的評価6割以下	4 PTAと順調に連携を進めることができている。地域のお祭りも復活しつつある。	できることから無理せずに、徐々に楽しく地域と活動してほしい。	A	引き続き具体的な方策の徹底を図っていく。	



学校教育目標	・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒	ビジョン	【目指す学校像】	生徒が「①進歩や成長を実感、②自己実現を図る、③夢や希望を実現する、④安心・安全に生活できる」場			
			【目指す児童・生徒像】	①意欲的、主体的に取り組む、②あいさつができる、思いやりがある、③自らの力で進路を切り拓く、④心身ともに健康である			
			【目指す教師像】	①生徒一人一人を大切にする、②高い指導力をもつ、③信頼される、④組織の一員として職務にあたる、⑤昭和中を愛する			

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学びに向かう力と人間性等を養う。	目標の明示と振り返りの活用から指導と評価の一体化による学力の定着させる。  思考力・判断力・表現力の育成を図り、自分の考えを他者に伝える力を育む。  主体的に学習に取り組む態度の育成と家庭学習の定着	学習目標の提示し振り返りを工夫することで、学習理解を深める。  書くこと、発表することやICTの活用により、表現力を意識した授業の実践する。  シラバスの活用と各教科での学習課題の明確な提示と評価	4 毎時間目標を明示し、振り返りを工夫した。  3 8割以上の授業で目標を明示し、振り返りを工夫した。  2 5割以上の授業で目標を明示し、振り返りを工夫した。  1 目標を明示し、振り返りを工夫した授業は5割未満	3	4 「授業をよく理解できた」と答える生徒が90%以上  3 「授業をよく理解できた」と答える生徒が70%以上  2 「授業をよく理解できた」と答える生徒が50%以上  1 「授業をよく理解できた」と答える生徒が50%未満	3	効果的なので継続する。  ねらいが曖昧にならないよう気を付ける。	*目標と振り返りは今後も継続してほしい  *結果に差がある場合の対応が大切	B	*目標を明らかにし、丁寧に振り返る授業の実践  *振り返り後の対応は個別に行う。
				4 9割以上の授業で表現力指導を徹底した。  3 8割以上の授業で表現力指導を徹底した。  2 5割以上の授業で表現力指導を徹底した。  1 表現力指導を徹底した授業は5割未満。	3	4 「表現力がついた」と答える生徒が90%以上  3 「表現力がついた」と答える生徒が70%以上  2 「表現力がついた」と答える生徒が50%以上  1 「表現力がついた」と答える生徒が50%未満	3	発言しやすい雰囲気作りが大切。ICT活用により思考力、表現力の高まりを感じる。	*ICTの効果的な活用と注意点を共有する  *パワポ発表等の機会を増やす	B	他者に伝える力を育成するため、ICTの活用は継続して工夫する。発言や書く活動も大事にする。
				4 学習習慣定着のための指導を確実に実施した。  3 学習習慣定着のための指導を概ね実施した。  2 学習習慣定着のための指導を時々実施した。  1 学習習慣定着のための指導をほとんどできなかった。	2	4 家庭学習の時間が「4時間以上」が最も多い  3 家庭学習の時間が「4時間未満」が最も多い  2 家庭学習の時間が「3時間未満」が最も多い  1 家庭学習の時間が「2時間未満」が最も多い	2	課題を与えれば取り組むが、自ら課題を見付けて取り組むことができない。	*グループでの相互評価で課題を抽出する  *すすんで取り組む意識の醸成が必要	C	家庭学習をしようと思う課題の設定を各教科で工夫する。
豊かな心	全教育活動を通じて、人権教育・心の教育を推進し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるために基盤となる豊かな人間性を育む。	全教育活動を通じて生徒の努力を認め、自己有用感を育み自尊感情を高める。  と考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	傾聴・共感して認め、助言し実行させて褒める指導を徹底する。  ①内容項目を理解し、議論や発問の工夫を行う。 ②全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4 認め、褒める指導の実践が定着した。  3 傾聴、共感、認めるから助言につなげた。  2 傾聴、共感をし、認める努力をした。  1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする。	4	4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上  3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が60%以上  2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が40%以上  1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が40%未満	3	授業中、学活中、部活動など様々な場面で、認め褒めることを実践している。	*自己肯定感を高める指導とともに不正に対する適切な指導も続ける	B	自尊感情を育むために、一人一人の存在を大切にし、認め伸ばす指導を続ける。
				4 様々な場面で内容項目を価値付けて指導した。  3 発問を工夫することで内容項目を深められた。  2 教材研究で内容項目を理解したが十分深められなかった。  1 教材研究で内容項目の理解が不十分だった。	3	4 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が80%以上。  3 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が60%以上。  2 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が40%以上。  1 道徳の授業で自分の考えを深められた生徒が40%未満。	3	議論する時間を毎時間設定している。他の生徒の発言に気付かされて考えを深めている。	*相手を尊重して話合う力は大切です  *ディベート力も必要	B	教師の人間味ある指導の下、生徒と共に考え、悩み、感動する道徳授業を実践する。
				4 いじめ問題にすぐに対応し、早期解決を図った。  3 いじめ問題にすぐに対応したが、対応は継続している。  2 いじめ問題の対応が遅れたが、解決できた。  1 いじめ問題の対応が遅れ、解決できていない。	4	4 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が90%以上  3 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が80%以上  2 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が70%以上  1 落ち着いて安心して学校生活ができる生徒が70%未満	3	即時対応をすることで早期開設につながっている。	*安心して学校生活を送れる生徒を100%にする  *不登校生徒を含めて未然防止は大事	A	毎月の生活アンケートの結果を基に、問題の早期発見、早期解決に努める。
健やかな体	心身共にたくましく、健やかな生徒の育成を図り、健康・安全で活力ある生活を送るために基礎を培う。	体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成  安全教育・防災教育の推進と命を大切にする心の教育のを推進する。  SNSの活用について考え方、規則正しい生活を送らせる。	体力向上の個人目標を設定する。保育授業TTや男女共習授業と部活動を充実する。  安全指導の計画的な実施。自殺予防教育・がん教育・薬物乱用防止教育の実施。  SNS学校ルールの定着及び家庭ルールの作成・定着を徹底する。	4 生徒の目標達成のために積極的に支援した。  3 生徒の目標達成のために支援した。  2 生徒の目標を理解し助言した。  1 生徒の目標を十分把握できなかった。	3	4 体力テストで全学年が都標準以上  3 体力テストで2つの学年が都標準以上  2 体力テストで1つの学年が都標準以上  1 体力テストで全学年が都標準未満	3	体力調査の結果から、個人目標を設定できた。長距離走の取組で持久力の高まりを感じる。	*コロナ明けで体力づくりに力を入れてほしい  *個人目標の設定でモチベーションの維持	B	体育の授業及び運動部活動で、体力向上個人目標を設定し、その支援を行う。
				4 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導・徹底している。  3 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導している。  2 命の大切さと安全・安心な学校生活を心がけている。  1 命の大切さと安全・安心な学校生活を指導できていない。	3	4 命の大切さを理解し、自助・公助の精神が身に付いた。  3 命の大切さを理解し、自助・公助の大切さを理解した。  2 命の大切さを理解し、自助を心がけている。  1 命の大切さを理解し、自助について理解した。	3	他人を傷付ける言葉への指導に共感する  *命の大切さを訴え続ける	B	様々な安全教育及び道徳科の指導を通して、命の尊さを教師・生徒・保護者と共に考えていく。	
				4 SNSルールの徹底を家庭に指導した。  3 SNSルールを学級で指導・徹底した。  2 SNS家庭ルールの作成を家庭に指導した。  1 SNS学校ルールを学級で指導した。	3	4 SNSルールが定着した生徒が80%以上  3 SNSルールが定着した生徒が50%以上  2 SNSルールを意識している生徒が50%以上  1 SNSルールを意識している生徒が50%未満	3	学級活動や第三者面談等でSNSルール策定指導を行った。家庭での使用時間に課題がある。	*ルールの徹底・周知のために家庭との連携・協力を得る理解教育大事  *ルールの見直し必要	B	SNSルールの見直しとともに、学校及び家庭での徹底に力を入れ、生徒の道徳性を高める。
輝く未来	学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係を築き、生徒一人一人に応じた指導・支援を図る。	年間を通じた計画的な教育相談面談の実施と教師によるカウンセリングの充実  キャリア教育の計画的な推進と夢の実現に向けて努力する生徒の育成  生徒理解に基づいた個への配慮が必要な生徒への支援の充実	面談指導の計画的な実施、個の課題解決を支援する個別の会話・面談や言葉かけ  適切な進路指導計画の作成と計画的な推進、キャリアルバムの活用  特別な支援を要する生徒への適切な対応、保護者との連携と合理的配慮の推進	4 定期面談・随時面談・QUのすべてを活用、実施した。  3 定期面談・随時面談を実施した。  2 定期面談のみ実施した。  1 定期面談・随時面談・QUのいずれも活用、実施できなかった。	3	4 先生に相談すると安心できる生徒が80%以上。  3 先生に相談すると安心できる生徒が60%以上。  2 先生に相談すると安心できる生徒が40%以上。  1 先生に相談すると安心できる生徒が40%未満。	3	日頃の関わりの中で相談しやすい雰囲気づくりをしている。会話の中から生徒の変化に敏感である。	*生徒一人一人への教員の苦労には感謝	B	定期的な面談では、教員間での共有を大切にする。日常の生徒との関わりを大切にする。
				4 キャリア教育を通して夢を実現する計画づくり指導した。  3 計画的キャリア教育で将来の自分を考えさせた。  2 キャリア教育を通して自己の良さや適性を考えさせた。  1 キャリア教育を通して働くことの大切さを考えさせた。	3	4 将来の夢に向けて具体的に計画を作成した。  3 将来の夢について考え、目標を持つことができた。  2 将来の夢を自分で考えることができた。  1 将来のことをほとんど考えることができなかつた。	3	職場体験が将来の夢を考えるきっかけになった。総合や学活の時間を有効に活用している。	*職場体験の準備は大変ですが、ぜひ継続してほしい	B	小中9年間の計画的なキャリア教育を行い、夢をもつことの意義を常に伝えていく。
				4 日常的な特別支援教育の啓発と推進を実践した。  3 日常的な特別支援教育を理解し実践した。  2 日常的な特別支援教育を理解した。  1 日常的な特別支援教育の理解が不十分だった。	3	4 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が80%以上。  3 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が60%以上。  2 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が40%以上。  1 先生は一人一人のことを考えてくれると感じる生徒が40%未満。	3	特性を理解して生徒と向き合っている。個に応じた対応を保護者と密に共有している。	*周囲の生徒の理解が必要  *保護者との連携でよりよい教育環境づくり	B	教育相談委員会の充実と確実な生徒理解及び共有を大切にする。

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
			【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	問題解決型福島中方式4ステップ授業から深まりのある指導を実践する。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を定着する。	4   深まりにつながる4ステップ授業を行った	3	4   授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	2	・深めるために、さらに基礎学力の向上を進めていく。 ・ペア学習やグループ学習を活用し、タブレットを活用し、広げたり、個で深める授業に取り組んだ。	B	・4ステップの授業の徹底と生徒の体験的な活動や、タブレット活用など取り入れていく。また、言語活動の充実を図り、基礎学力の向上を進める。	
				3   「深める」ための指導の工夫を行った		3   授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%以上					
				2   「広げる」ための指導の工夫を行った		2   授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上					
		考え方を深めるための読み解き力と表現力を身に付けさせる。		1   個と集団を意識した授業を行った		1   授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満					
		国語を中心、読む・書く時間を確保するとともに、発表活動の場面を増やす。	4   深く読み、表現する授業を毎時間展開した	2	4   考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上	3	・ペアやグループ学習を行ながり、自分の考えを言語化できるような展開ができた。 ・レポートやまとめを発表させる機会を積極的に設けることができた。	B	・多くの生徒が発表する機会を増やし、表現力の向上を図る。 ・発言をしない生徒が固定化されないようにする。		
			3   深く読み、表現する授業を7割以上行った		3   考え発表する体験が多いと感じた生徒が70%以上						
			2   授業では自分の考えを書く		2   考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上						
			1   授業では読むこと書くことを大切にした		1   考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満						
	主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。	授業のねらいと振り返りを行い、自ら意欲をもつて授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4   毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った	2	4   主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上	2	・振り返りを毎回の授業で行い、單元の振り返りはできているが、家庭学習の繋がりが弱い。 ・自身で課題を見付け学習を進める機会を設けた。まだ、主体的に取り組む力が足りない。	B	・全教科、ねらいと振り返りをしっかりとさせていく。 ・振り返りを生かし、学習意欲の向上に期待したい。	B	・予習や復習等の学習習慣の確立により、家庭学習に取り組む意義に気付かせる。 ・振り返りにも注力し、学習の成果を自分で感じることができるよう工夫する。
				3   每時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った	3   主体的な学習習慣が定着した生徒が80%以上						
				2   每時間ねらいを示し、振り返りを行った	2   主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上						
				1   授業のねらいと振り返りを時々行った	1   主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満						
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え方、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①全教員が道徳授業を行う。 ②全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4   生徒が考え、気付きのある発問を工夫した	2	4   自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上	2	・全教員の実施、横断的な指導ができるようになっている。 ・発問の検討を行い、タブレット・動画などの授業構成を考えさせたが、発問の工夫までが難しい。	B	・生徒のワークシートをもとに、発問の工夫を行う。 ・事前に発問内容をよく検討し、考えを深めさせる授業を確立していく。	B
				3   教材解釈と教材の工夫を十分に行った		3   自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が70%以上					
				2   計画通りに22の内容項目を全て扱った		2   自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%以上					
		一人一人を大切に尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	④   生徒育成サイクル指導の実践が定着した ③   傾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。	1   自分で教材理解をして年間35時間行った		1   自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%未満		・自分で考えで発表し、クラスで共有するステップを踏んだ。傾聴、共感に重きをおき指導できた。		・一人一人の意見を認め合い、発表等しながら、傾聴、共感できる力を身に付けてほしい。	
				4   傾聴、共感、認めるから助言につなげた		4   教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が90%以上		・教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が85%以上		・自主的、自治的活動の充実により、自尊感情の醸成が図っていく。	
		気持ちよい挨拶や返事にを通して、お互いが快適に過ごせる人間関係を築く。	②   傾聴、共感をし、認める努力をした ①   傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする	2   傾聴、共感をし、認める努力をした		3   教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が85%以上		・教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が50%以上		・生徒の気付きができるように引き続き教材を活用してほしい。	
				1   傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする		1   教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が50%未満		・教員は良さを認め伸ばしてくれる感じた生徒が50%未満		・一人一人の意見を認め合い、発表等しながら、傾聴、共感できる力を身に付けてほしい。	
				4   校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った	3	4   学校内外で、すくんで挨拶できる生徒が85%	2	・自分で考えで発表し、クラスで共有するステップを踏んだ。傾聴、共感に重きをおき指導できた。	B	・自主的、自治的活動の充実により、自尊感情の醸成が図っていく。	B
				3   学校生活での挨拶・返事ができる生徒が85%以上		3   学校内外で、挨拶・返事ができる生徒が85%以上		・傾聴、共感を通して、生徒の良さを見付けることに注力できた。		・生徒の気持ちは受け止め、解決方法と一緒に考えて論理的な指導を継続していく。	
				2   授業中の挨拶・返事の指導を徹底した		2   学校内外で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上		・校内での授業や学年行事の中では、挨拶ができる生徒も多い。		・挨拶、返事をする習慣は大切なことなので継続してほしい。	
				1   挨拶・返事の指導を時々行った		1   学校内外で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満		・休み時間や学校外で挨拶ができる生徒は少ない。		・挨拶の意義を理解させながら、丁寧な指導を行っていく。	
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	年間を通して健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4   一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した	3	4   運動を主体的に取り組む生徒が90%以上	2	・部活動において主体的に取り組む雰囲気をつくることができた。	B	・体育祭の動きから、運動姿勢や意欲がみえる。	B
				3   体力向上のために個に応じた方法を指導した		3   運動を主体的に取り組む生徒が70%以上		・個人で目標をもながら運動に参加している生徒は多いように感じる。		・小さい成長を実感させながら部活を行っていくことで主体性を高めていく。	
				2   体力向上の意義と取組み方法を指導した		2   運動を主体的に取り組む生徒が50%以上					
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。		1   運動を主体的に取り組む生徒が50%未満							
		SNSの利活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	4   給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	2	4   全校で1か月の平均残菜率が5%以下	2	・学級での指導、栄養士の指導や保健委員会の活動を通じて、指導の充実が図られた。	B	・食事を作る人の感謝を忘れずに、食の大切さを求めてほしい。	B	
			3   給食を残さず食べる指導をした		3   全校で1か月の平均残菜率が7%以下		・2学期までの残菜率は、約7.5%である。残菜率3%程度のときもある。		・食の大切さや食に対する指導を継続とともに、保健委員と連携しながら協力していく。		
			2   全校で残さず食べる指導に取り組んだ		2   全校で1か月の平均残菜率が10%以下				・残菜を減らすことの意義について考える機会を増やす。		
			1   学級で食育指導を定期的に行つた		1   全校で1か月の平均残菜率が10%前後						
輝く未来	家庭・地域との連携を進め、将来の確かな夢をもち、夢を語れるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	④   学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。	4   毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した	3	4   学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	2	・学校便りから、学校の様子がわかる。情報発信を継続してほしい。	B	・情報の取り扱いについて注意しながら、発信をおこなっていく。	B
				3   学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った		3   学校の教育活動に安心している保護者が80%以上		・HPとブログの違いを保護者に分かりやすく伝える。		・学校便り、行事予定、ブログ等の更新を早く行う。	
				2   学校・学年だよりは毎月1回以上発行した		2   学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。		1   学校だよりは毎月1回以上発行した		1   学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
		総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4   将来の夢の実現に向けた計画づくりを指導した	3	4   将来の夢を考へた生徒が50%以上	2	・将来の夢を考へる機会をつくるとともに、学活や道徳の授業を要に指導した。</td				

学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主・自立の精神を培うことができる学校・生徒・保護者・地域・教職員が誇りをもてる学校
			・すすんで学習に励む生徒・たくましい体力を身につけた生徒・規律と礼儀を重んじる生徒・すすんで働き、協力しあう生徒
			・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、振り返り、授業評価を授業で実践する	4:自己評価4段階平均値3.7以上	3	4:90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	・振り返りは自身の省熟度の確認においてとても重要だと思います。小学校でも振り返り授業が導入されているので、継続してゆくことで学習能力にも良い結果がもたらされると思います。	B	振り返りにおいて、質問の内容に課題を感じたため検討していく。また、生徒が思考を深めるためのツールとしてICT機器も適切に活用していく。口頭試問や動画視聴などにより、授業時間の最後にも振り返りを行うようにし、基礎学力の定着率の向上を目指す。	
				3:自己評価4段階平均値3.6以上		3:80%~90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
				2:自己評価4段階平均値3.5以上		2:70%~80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
				1:自己評価4段階平均値3.5未満		1:70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	4:自己評価4段階平均値3.7以上	3	4:70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	3	・家庭学習の記録は多数の生徒で家庭学習定着の足がかりになっている。教科書の本文の音読チェックを行うことで、教科書本文の音読練習を、家庭で行う生徒が増えた。ノートも、英作文を定期的書いて提出させることによって、英文を書く習慣が少しずつ定着していると考える。	B	テスト前の学習計画表を学年で統一した様式にし、1年次より計画的に学習をする習慣を身に付けさせたい。また適宜、家庭学習の仕方や課題への取り組み方を助言し、学習意欲や効果を上げられるようにする。	
				3:自己評価4段階平均値3.6以上		3:50%~70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
				2:自己評価4段階平均値3.5以上		2:40%~50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
				1:自己評価4段階平均値3.5未満		1:40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
		0	0	4:10		4:10		・生徒に対し日常的に自己配りし、授業以外でいるようにしたり、連絡帳で日記のやり取りをしたりするなど、生徒が小さなことで話しゃべく、異常に気付きやすい環境づくりを行った。道徳の授業では、パワーポイントを活用し、生徒が自分事として捉えられるような工夫を行うことができた。	B	学年全体に目を向けて、声かけを行う。また、自分自身の心にも余裕をもち、生徒に声をかける機会を増やすことで、日ごろから声をかけやすい雰囲気を作ることも心がける。日々の生徒の様子をよく観察し、トラブルを未然に防止できるよう全教員で実践していく。	
				3:10		3:10					
				2:10		2:10					
				1:10		1:10					
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4:自己評価4段階平均値3.4以上	3	4:90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	・生徒に対し日常的に自己配りし、授業以外でいるようにしたり、連絡帳で日記のやり取りをしたりするなど、生徒が小さなことで話しゃべく、異常に気付きやすい環境づくりを行った。道徳の授業では、パワーポイントを活用し、生徒が自分事として捉えられるような工夫を行うことができた。	B	学年全体に目を向けて、声かけを行う。また、自分自身の心にも余裕をもち、生徒に声をかける機会を増やすことで、日ごろから声をかけやすい雰囲気を作ることも心がける。日々の生徒の様子をよく観察し、トラブルを未然に防止できるよう全教員で実践していく。	
				3:自己評価4段階平均値3.3以上		3:80%~90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
				2:自己評価4段階平均値3.2以上		2:70%~80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
				1:自己評価4段階平均値3.2未満		1:70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4:自己評価4段階平均値3.6以上	3	4:90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	3	・道徳ではグループ活動を多く取り入れた。また、中心発問に関して問い合わせを適切に設定期間で、自らの行動を振り返り、考えを深めることができた。	B	授業において、いろいろな人と交流することによって、様々な人の考え方に対する理解を深め、さらなるコミュニケーション能力の向上を目指し、どのように練習していくかを考える。	
				3:自己評価4段階平均値3.5以上		3:80%~90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
				2:自己評価4段階平均値3.4以上		2:70%~80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
				1:自己評価4段階平均値3.4未満		1:70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
		0	0	4:10		4:10		・体育大会など生徒同士が仲間と体を動かし、活動することを楽しんで欲しいと思います。	B	準備運動や補強運動を正しいフォームで行い効果を高める。また、引き続き、環境や道具、役割分担にも力を入れて、能力差があつても個々に運動量が確保されるようする。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるよう指導をしていく。	
				3:10		3:10					
				2:10		2:10					
				1:10		1:10					
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4:自己評価4段階平均値3.1以上	4	4:90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	・各種目に応じた準備運動を行い、補強運動を通して基礎体力の向上を図った。また、運動時間の確保も心がけることができた。能力差がある中でも、役割分担をして、達成感を得られるように工夫をした。また、部活動では部員の実態に応じて練習メニューを工夫し、基礎体力を向上させる良い環境となつた。	B	準備運動や補強運動を正しいフォームで行い効果を高める。また、引き続き、環境や道具、役割分担にも力を入れて、能力差があつても個々に運動量が確保されるようする。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるよう指導をしていく。	
				3:自己評価4段階平均値3.0以上		3:80%~90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
				2:自己評価4段階平均値2.9以上		2:70%~80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
				1:自己評価4段階平均値2.9未満		1:70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4:自己評価4段階平均値3.7以上	3	4:90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	・避難訓練の際に、学級で適宜安全指導ができた。朝礼でも生活指導部の教員が月に1回、安全指導を行っている。健康指導では、給食栄養士と連携して、食育指導を実践した。	B	保護者の方と連携を図りながら、生徒の生活習慣について把握し、スマートフォンで生徒の行動を把握する。また、部活動の課題として、日々の運動量が確保されるようする。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるよう指導をしていく。	
				3:自己評価4段階平均値3.6以上		3:80%~90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
				2:自己評価4段階平均値3.5以上		2:70%~80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
				1:自己評価4段階平均値3.5未満		1:70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
		0	0	4:10		4:10		・生徒が一人で行動することが多くなる中学では、大人がいないときに自分の身をどうやって守るかが必須になると、公道、公共施設、娛樂施設、公共交通の中での安全法を教えていただきたいと思う。何のために避難訓練をするかよく考えさせることが必要である。東日本大震災や能登半島地震の映像を見ることも効果があると考える。地域としても、世界の中でも一番大切なものは「人の命」であることを共有していかなければいけない。	B	保護者の方と連携を図りながら、生徒の生活習慣について把握し、スマートフォンで生徒の行動を把握する。また、部活動の課題として、日々の運動量が確保されるようする。部活動では生徒自身が意欲的に取り組む環境を作っていくことが課題であり、主体的に行動できるよう指導をしていく。	
				3:10		3:10					
				2:10		2:10					
				1:10		1:10					
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4:自己評価4段階平均値3.7以上	3	4:70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	・高校受験のインターネット出願やご家庭での入力作業など学校では把握できない部分があり、指導も大変かと思います。生徒の受			

学校教育目標	人権尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す。 ・美しい心・創造的な知性・たくましい体	【目指す学校像】	生徒にとっても教職員にとっても、さらには家庭・地域にとっても「楽しく」、「学び、集いあえる」学校の実現を目指す。④ 学校は「成長を実感できる場」である⑤ 学校は「自己実現できる場」である⑥ 学校は「夢や希望をはぐくむ場」である⑦ 学校は「安心して安全に生活できる場」である⑧ 学校は「意外性」と「多様性」を生かしていく場である
		【目指す児童・生徒像】	(美しい心)正しい判断力、強固な信念、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神を養う(創造的な知性)自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度を養う(たくましい体)均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を育てる
		【目指す教師像】	【15歳の生徒の姿に責任をもつ教師】生徒一人一人を大切にする教師 (声を聞く、対話を心導き出す)④ 1時間1時間の授業を大切にする教師 (声を聞く、授業の質を向上する)⑤ 生徒・家庭・地域から信頼される教師 (声を聞く、自らの背中で範を示す)⑥ 「和」を重んじ、チームのために自己の力を発揮できる教師 (声を聞く、意見を統合する)⑦ 清泉中を愛する教師 (清泉プライド!)

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	基礎的・基本的な知識や技能の習得に向けた授業改善を図る。	明確な課題提示と家庭での学習状況を把握し、指導の個別化・個性化を図っている。	4 個々の生徒の学習状況を把握し、指導の個別化・個性化を図っている。 3 個々の生徒の学習状況を把握し、指導の個別化を図っている。 2 個々の生徒の学習状況を把握し、授業や家庭学習の課題に生かしている 1 個々の生徒の学習状況が十分に把握されない。	2	4 授業が分かりやすいことへの肯定的評価85%以上 3 授業が分かりやすいことへの肯定的評価70%以上 2 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%以上 1 授業が分かりやすいことへの肯定的評価50%未満	3	授業が分かりやすさについて肯定的な意見は82.5%であった。	授業の視点を示すことや、専門的な講師を招聘しての研究授業などの取組を継続し、全教員の意識の向上を求める。	B	●生徒自身が「何のために学ぶのか」「何ができるようになるのか」など理解して学びに向かえるよう、明確な視点を示す。 ●各教科専門の講師を招聘した研究授業を行い、今求められている生徒主体の授業に向けて改善を図る。 ●生徒の学びの状況を学校HP等で発信していく。
			既習事項等を活用しながら思考力・判断力・表現力等を醸成するための授業改善を図る。	4 既習事項を生徒が自ら活用し、自ら問題を設定し、考えをまとめ表現する授業を行っている。 3 既習事項を生徒が自ら活用し、課題に対して考えをまとめ表現する授業を行っている。 2 既習事項を活用し、課題に対して考えをまとめ表現する授業を行っている。 1 生徒がどのように課題解決していくか理解できない授業となっている。	3	4 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価85%以上 3 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価70%以上 2 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価50%以上 1 他者との話し合いや意見を発表することへの肯定的評価50%未満	3	授業での話し合いや発表について肯定的な意見は84.2%であった。	授業観察から生徒同士の意見交換をタブレットも使用して実施するなどの工夫が見られた。しかし、担当教諭により実施状況が異なることが課題である。	B	●生徒の学びの状況を学校HP等で発信していく。
			自己の学習を調整する力などを育むための授業改善を図る。	4 生徒が学習のねらいを理解し、試行錯誤しながら課題解決する授業となっている。 3 生徒が学習のねらいを理解し、課題解決を行う授業となっている。 2 生徒が学習のねらいを理解し、学習に取り組む授業となっている。 1 生徒が学習のねらいを十分に理解していない授業となっている。	3	4 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価85%以上 3 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価70%以上 2 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価50%以上 1 意欲的に学習できるよう授業を工夫していることへの肯定的評価50%未満	2	生徒はタブレットの使用に関して84.2%が肯定的だが保護者は41.1%だった。また、保護者は学校の授業の工夫授業について55.0%しか肯定的ではない。	生徒は真面目に授業に向かっている。タブレットを活用し生徒の意欲につなげている場面も多い。	B	●生徒の学びの状況を学校HP等で発信していく。
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	いじめ、不登校等、諸問題に対して組織的に対応し、見逃し「0」、未対応「0」とする。	学校いじめ対策委員会を毎週実施し、組織的に状況分析と対応方針を決定する。	4 全教職員が些細な生徒の変化を意識し、綿密な情報共有、組織的な対応が行えた。 3 教職員同士が連携し、情報共有および対応を図った。 2 担任等の担当者からの情報を基に、対応した。 1 不十分な対応があった。	4	4 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的意見90%以上 3 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的意見80%以上 2 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的意見70%以上 1 学校はいじめの対応を行っていることへの肯定的意見70%未満	4	楽しく学校生活を過ごしていると肯定的な意見は91.6%であった。	いじめの対応については今後も丁寧に行っていただきたい。	B	・毎週、学校いじめ問題対策委員会を実施。 ・いじめアンケート毎月実施。 ・担任による聴き取り対応状況を学校として確認。
			全教育活動を通じて、規範意識の上に、自己有用感を醸成する。	4 社会や人の関わりの中で規範意識を育み、自己有用感を醸成している。 3 社会や人の関わりの中で、他の気持ちも考えながら自己有用感を醸成している。 2 ひととの関わりの中で自己有用感を醸成している。 1 人と関わる学習活動が十分に実施できていない。	3	4 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見85%以上 3 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見70%以上 2 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見50%以上 1 自己有用感に関わる評価で肯定的な意見50%未満	4	自己肯定感に関する肯定的な意見は88.2%だった。	今後も職場体験や職業についての学習では地域や保護者と連携しながら生徒の自己肯定感を高める取組を大切にしてもらいたい。	B	・職場体験や職業についての学習は教員と地域、保護者と連携して実施し、生徒のよさや役立っていることを実感できる場を増やす。
			道徳的価値と実践力の育成のための授業を推進する。	4 教科書とともに新聞等の情報を活用しながら他の意見も踏まえ自らの考えを構築する場面がある。 3 教科書とともに新聞等の情報を活用しながら他の意見も踏まえ自らの考えを構築する場面がある。 2 他の意見も踏まえ自らの考え方を構築する場面がある。 1 他の意見も踏まえ自らの考え方を構築していく場面が十分ではない。	2	4 よりよい方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価85%以上 3 よりよい方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価70%以上 2 よりよい方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価50%以上 1 よりよい方を考え「自分もクラスに貢献したい」と考えることへの肯定的評価50%未満	4	安心して生活しているかについての肯定的な意見は87.8%であった。	生徒たちが落ち着いて学習に向かっている。また、生徒たちが明るく挨拶してくれる様子もよい。	B	・QUテストの結果を踏まえた学級経営の向上を図る。 ・生徒自らがルールを考えていく機会を設定する。
健やかな体	心身ともにたくましく、健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたりスポーツに親しみ度の育成	体育の授業、体育的行事や運動部活動を通してスポーツに親しむ。	4 体力向上について計画的に指導を行い成果をあげている。 3 体力向上について計画的に指導を行っている。 2 あまり行っていない。 1 行っていない。	2	4 生徒の体力向上への肯定的評価85%以上 3 生徒の体力向上への肯定的評価70%以上 2 生徒の体力向上への肯定的評価50%以上 1 生徒の体力向上への肯定的評価50%未満	2	体力向上に関して肯定的な意見は66.4%であった。	体育大会はよかったです。日常的に生徒が体を動かす機会はあるのか。	C	・体育委員会を新設し、生徒が自由に楽しみながら体を動かす機会を増やす。
			食育を推進し、自らの心身の健康について考える機会を充実する。	4 各種年間指導計画に基づき十分な指導を行い成果をあげている。 3 各種年間指導計画に基づき指導を行っている。 2 各教科等で実施している。 1 十分な指導が実施できていない。	2	4 食事や栄養についての知識を生活で生かしている85%以上 3 食事や栄養についての知識を生活で生かしている70%以上 2 食事や栄養についての知識を生活で生かしている50%以上 1 食事や栄養についての知識を生活で生かしている50%未満	2	食事や栄養についての知識を生かしていることに肯定的な意見は70.5%であった。	食育について、教科の指導以外でどのように取り組んでいくのか。	C	・栄養士と連携しながら家庭科で学んだ栄養等について考え、献立コンテストを実施する。 ・お弁当日の意義を家庭と共有していく。
			個に応じた支援の充実	4 個別の支援計画の作成と評価、次の手立ての流れが検討している。 3 個別の指導・支援計画の実施と評価ができる。 2 個別の指導計画を作成し指導場面で活用している。 1 個別の指導計画を十分に活用していない。	4	4 学校の相談体制について肯定的な意見85%以上 3 学校の相談体制について肯定的な意見70%以上 2 学校の相談体制について肯定的な意見50%以上 1 学校の相談体制について肯定的な意見50%未満	3	相談に関する質問項目において生徒は87.1%が肯定的であったが保護者は39.3%の方は学校への相談に対して否定的であった。	新入生保護者会での学校の説明に安心した人もいた。学校の考えを発信していくことが必要ではないか。	B	・学校の考えを学校HPや学年便り等で発信する。 ・生徒が教職員の誰にでも相談できる体制を整える。
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	人権教育に踏まえたキャリア教育の推進	生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の可能性を引き出し、伸ばす教育を推進する。	4 人権の課題に触れながら自己理解が進み、自分の可能性も見出す学習活動がある。 3 人権教育とキャリア教育を推進している。 2 自己のよさや特性を考えキャリアプランを考える場面がある。 1 自己のよさや特性を十分に考える場合が設定されていない。	3	4 自らの個性・特性への理解の肯定的評価85%以上 3 自らの個性・特性への理解の肯定的評価70%以上 2 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%以上 1 自らの個性・特性への理解の肯定的評価50%未満	4	自らの個性や特性へ理解に関する肯定的な意見は88.2%であった。	教員(大人)から生徒への声かけが生徒を育てていく。また、生徒の主体的な取組を大切にしていく。	A	・全教育活動を通じて、自分自身を肯定的に見つめる機会を充実する。 ・教職員の言葉かけの質の向上を図る。
			自己決定力の醸成	4 年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導を推進する。	3	4 将来について考えることへの肯定的評価85%以上 3 将来について考えることへの肯定的評価70%以上 2 将来について考えることへの肯定的評価50%以上 1 将来について考えることへの肯定的評価50%未満	3	将来について考えることに肯定的な意見は83.6%である。	キャリア教育が具体的にどのように進められているのかよくわからない。	B	・教員のキャリアパスポートへの理解を深める。 ・学校の取組を保護者に発信し、連携できるようにする。
			働くことの意義の理解と喜びを知る教育の推進	4 生徒の自治的活動を推進するとともに、体験活動を充実させる。	3	4 生活をよりよくしていくとする評価で肯定的な意見85%以上 3 自己の役割を果たすとする評価で肯定的な意見70%以上 2 自己の役割を果たすとする評価で肯定的な意見50%以上 1 自己の役割を果たすとする評価で肯定的な意見50%未満	4	生活をよりよくしていくとする肯定的な意見は91.6%であり、日ごろからも主体的に活動する場面が見受けられた。	生徒会本部が中心となり、保護者や地域と一緒に活動していく。これを継続していくことがいいのではないか。	A	・現在行っている生徒会本部を中心とした生徒による改革を推進していく。

令和5年度

昭島市立拝島中学校

## 学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	勉学 敬愛 至誠 健康	よく考え正しく判断できる人 人を敬愛し愛と慈しみのある人 誠実で責任感の強い人 健康で心身ともにたくましい人	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	(1)安心して楽しく活動できる学校 (2)生きる力を育む学校 (3)家庭・地域とのつながりを大切にする学校
				(1)主体的に学習する生徒 (2)相手のことを考えながら行動できる生徒 (3)共に心身を鍛える生徒
				(1)生徒と正面から向かい合える教師 (2)豊かな人間性を備えた教師 (3)学び続ける教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	落ち着いた一日のスタートを切るための主体的な朝読書の取組	4 生徒が8:20分には朝読書をするように指導した95%以上達成	3	4 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ90%以上	3	80%以上取り組んだと回答した生徒の割合は72.3%であった。取組指標においては、生徒が8:20には朝読書をするように指導した90%以上と回答した割合が79.2%にとどまっている。8:20前に静かで落ち着いた環境をつくり、生徒の朝読書への取組を習慣化させる必要がある。	前年度よりも朝のスタートが早く、静かになっている。朝読書に対する3年生の取組が後輩にもよいながれになっていて良い。朝読書の取組自体が良い。	B	8:20には担任が教室について落ちていた静かな雰囲気をつくる。支援または指導を要する生徒へ学年体制で対応する。
				3 生徒が8:20分には朝読書をするように指導した80%以上達成		3 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ80%以上					
				2 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%以上達成		2 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%以上					
				1 生徒が8:25分には朝読書をするように指導した95%未満達成		1 朝読書で毎日、8:20には集中して取り組んだ70%未満					
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	教員が授業始まりに教室でチャイムを開く実践 95%以上	4 チャイム終了時に授業開始の号令実施90%以上	4	4 着席チャイムが、学期を通して守ることができた90%以上	4	80%以上守ることができたと回答した生徒の割合は91%であった。授業の開始の時間を意識して準備をすることができている。取組指標、成果指標ともに90%以上と回答する割合が9割を超えるよう、徹底していく。	授業と休み時間のけじめがきちんとつけられている。チャイム前に教員が入り、生徒の様子を見守っているのが良い。授業規律はおおむね守られている。	A	始業チャイム前に教員が教室に入る。授業規律を徹底する。
				3 チャイム終了時に授業開始の号令実施80%以上		3 着席チャイムが、学期を通して守ることができた80%以上					
				2 チャイム終了時に授業開始の号令実施70%以上		2 着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%以上					
				1 チャイム終了時に授業開始の号令実施70%未満		1 着席チャイムが、学期を通して守ることができた70%未満					
		わかる授業、達成感・満足感のある授業の実践	生徒が見通しを持ち、授業で学んだことが分かる授業の実践	4 授業の目標・流れを示し、振り返り実施90%以上	2	4 授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてくれている。90%以上	3	目標・流れの提示していると回答した生徒の割合が83%、まとめ・振り返りをしてくれていると答えた生徒の割合が75%であった。取組指標では、85%以上実践と回答した割合が99.6%、80%実践と回答した割合が81.6%であったため、評価2とした。85%実践の100%を達成し、分かる授業の実践をしていく必要がある。	見通しをつけることで、予習、復習に役立てて良い。授業の内容についていく生徒、そうでない生徒の差を埋めるのは難しい。授業理解に向けたさらなる努力が必要である。	B	黒板掲示用の「授業の目標」「流れ」「振り返り」カードを使い、全クラス全授業で統一して行う。
				3 授業の目標・流れを示し、振り返り実施85%以上		3 授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてくれている。80%以上					
				2 授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%以上		2 授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてくれている。70%以上					
				1 授業の目標・流れを示し、振り返り実施80%未満		1 授業の目標、一時間の流れを示し、振り返りをしてくれている。70%未満					
				4 適成感・満足感がある。80%以上	1	4 適成感・満足感がある。80%以上	3	達成感・満足感があると回答した生徒の割合が81.3%、教科の楽しさを感じると回答した生徒の割合が79.7%であった。取組指標においては、授業の目標の設定や授業の振り返りの実施はしているものの、週案への記載が十分ではない現状がある。年間指導計画をもとに翌週の計画を確實に記載し、計画的に授業を行っていく必要がある。	次の週の目標を立てることにより達成感が得られていて良い。授業の内容についていく生徒、そうでない生徒の差を埋めるのは難しい。授業の充実について工夫が必要。	B	週案に翌週までの授業の目標を書き、さらに計画的に授業を進めていく。生徒が何を学んだか振り返る時間を確保する。
				3 適成感・満足感がある。70%以上		3 適成感・満足感がある。70%以上					
				2 適成感・満足感がある。60%以上		2 適成感・満足感がある。60%以上					
				1 適成感・満足感がある。60%未満		1 適成感・満足感がある。60%未満					
豊かな心	豊かな情操の育成	主体的に規律を守れる生徒の育成	教員・生徒ともに挨拶を主体的に実践及び生徒会活動の活性化	4 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。100%	2	4 自分から進んでほぼ毎日できている	4	挨拶をしていると回答した生徒の割合は92.4%であった。取組指標において、2学期末の時点で90%以上と回答した割合が69.7%から82.6%へと增加了。挨拶の習慣は概ね身に付いていると言えるが、自分から進んで挨拶できるよう指導の充実を図る必要がある。	校内、廊下ですれ違うとき、元気よく挨拶ができる生徒が多い。職場体験中の生徒からも気持ちよいあいさつがあった。挨拶は概ねできている。	A	生徒が主体的に挨拶できるよう日々の指導を充実させる。教員からも率先して挨拶を行う。
				3 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。90%		3 挨拶をされたときはほぼ挨拶をしている					
				2 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%		2 挨拶ができなかったことが多かった					
				1 生徒が主体的に挨拶できるよう毎日指導を行った。80%未満		1 挨拶はほとんどできなかった					
			主体的な清掃活動を充実させるために委員会活動の活性化	4 積極的に行った	3	4 清掃活動を、自ら進んできちんと行った90%以上	3	80%以上きちんと行ったと回答した生徒の割合は72.8%であった。概ね主体的に清掃活動に取り組むことができているが、掃除場所が多岐にわたり、人数も多く、清掃時間時間が短いこともあり、煩雑になっているところもある。生徒による清掃活動の振り返りと、教員の確認、指導を充実させる必要がある。	清掃活動を進んでできることはすぐらしい。基準を高く設定し、清掃しているのできれいな環境を維持できている。清掃活動は概ね良い。	B	清掃チェックシートを用いた生徒自身による清掃活動の振り返りを行い、教員による確認、指導を充実させる。
				3 どちらといえれば積極的に取り組んだ		3 清掃活動を、自ら進んできちんと行った80%以上					
				2 どちらかといえば消極的になってしまった		2 清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 清掃活動を、自ら進んできちんと行った70%未満					
		主体的に行動できる生徒の育成	行事・委員会・係活動において、主体的に考える行動できるような指導・支援の推進	4 積極的に行った	4	4 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。90%以上	4	取り組めたと回答した生徒の割合は88.7%であった。自分の仕事に対し、責任をもち主体的に取り組むことはできている。学校をよりよくするために何ができるかを考え、提案し、主体的に行動できるよう指導・支援を推進していく。	行事・諸活動は概ねよくできている。合唱コンクールなどにも、それぞれ新しい取り組みを考えて、画期的である。いろいろな活動に積極的になれない生徒への支援の充実が必要である。	A	生徒が主体的に考え行動できるような指導・支援を推進していく。
				3 どちらといえれば積極的に取り組んだ		3 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。80%以上					
				2 どちらかといえば消極的になってしまった		2 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 行事・委員会・係活動に、自ら進んで積極的に参加できた。70%未満					
				4 積極的に行った		4 自ら進んで日々の健康管理に努めた90%以上		80%以上できたと回答した生徒の割合は90.8%であった。給食前の手洗いや朝の健康管理などしっかりと行えている。保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。		先生と生徒、家庭で協力し、健康の保持・増進に取り組む必要がある。インフルエンザ等感染症にかかりにくい健康管理をする呼びかけを増やしていくとよい。	B
健やかな体	心と体の健康維持	主体的に健康管理ができる生徒の育成	主体的な健康管理を推進するための生徒会活動の活性化	3 どちらといえれば積極的に取り組んだ	3	3 自ら進んで日々の健康管理に努めた80%以上	4	80%以上できたと回答した生徒の割合は90.8%であった。給食前の手洗いや朝の健康管理などしっかりと行えている。保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。	先生と生徒、家庭で協力し、健康の保持・増進に取り組む必要がある。インフルエンザ等感染症にかかりにくい健康管理をする呼びかけを増やしていくとよい。	B	保健委員を中心とした健康管理への啓発活動をより一層活性化させる。
				2 どちらかといえば消極的になってしまった		2 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%以上					
				1 消極的になってしまった		1 自ら進んで日々の健康管理に努めた70%未満					
		防災意識の高い生徒の育成	毎回の避難訓練において、防災意識を高める実践	4 積極的に行った		4 避難訓練の始まりから終わまで真剣に行えた90%以上		80%以上真剣に行えたと回答した生徒の割合は94.7%であった。無言行動を徹底し、規律のある避難訓練を実施することができている。様々な場面、状況を想定した避難訓練を実施していく。		規律ある避難訓練ができる。無言行動の徹底により、安全面でも集中できて良い。防災訓練、セーフティ教室など積極的に取り組んでいる。訓練実施を見学できる機会があるといい。	A
				3 どちらといえれば積極的に取り組んだ							

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	ビジョン	【目指す学校像】	1 安心して楽しく活動できる学校	2 生きる力を育む学校	3 家庭・地域との繋がりを大切にする学校
			【目指す児童・生徒像】	1 深く考え、主体的に学習する生徒	2 思いやりのある生徒	3 共に心身を鍛える生徒
			【目指す教師像】	1 生徒と正面から向き合える教師	2 豊かな人間性を世話をした教師	3 学び続ける教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	教室で始業のチャイムを聞く実践	4 チャイム終了までに授業開始した95%以上	4	4 2分前着席が、学期を通して守ることができた80%以上	4	全校的に時間を意識して生活できているが、特に朝の登校時は、学年によって取組の徹底に差があった。	A	全教員が足並みを揃えた指導を行えるようにチームとして取り組んでいく。	
				3 チャイム終了までに授業開始した90%以上		3 2分前着席が、学期を通して守ることができた70%以上					
				2 チャイム終了までに授業開始した80%以上		2 2分前着席が、学期を通して守ことができた65%以上					
				1 チャイム終了までに授業開始した80%未満		1 2分前着席が、学期を通して守ことができた65%未満					
		わかる授業、達成感・満足感のある授業	生徒が見通しをもち、授業で学んだことが分かる指導の実践	4 授業の目標・流れを示し振り返りを行った90%以上	4	4 授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている80%以上	4	授業構成や指導方法を工夫する教員が増えているが、学力の定着は課題となっている。	A	生徒の実態把握・アンケートの分析に努め、指導方法の改善を図る。	
				3 授業の目標・流れを示し振り返りを行った85%以上		3 授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている75%以上					
				2 授業の目標・流れを示し振り返りを行った80%以上		2 授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている70%以上					
				1 授業の目標・流れを示し振り返りを行った80%未満		1 授業の目標、1時間の流れを伝えてくれている70%未満					
		教育のユニバーサルデザインを探求した授業の実践	教育のユニバーサルデザインを探求した授業の実践	4 生徒が分かった、できたという達成感満足感がもてるよう授業を工夫した80%以上	4	4 分かった、できたという達成感、満足感がある80%以上	4	肯定的回答は9割を超えており、「はい」のみの回答は6割で、教員によつて差が大きい。	A	授業力向上アドバイザー事業の取組を通じて、改善を図っていく。	
				3 生徒が分かった、できたという達成感満足感がもてるよう授業を工夫した75%以上		3 分かった、できたという達成感、満足感がある70%以上					
豊かな心	豊かな情操の育成	自尊感情・自己有用感のものもてる生徒の育成	学校生活全般における褒める指導の実践	2 生徒が分かった、できたという達成感満足感がもてるよう授業を工夫した70%以上	4	2 分かった、できたという達成感、満足感がある60%以上	4	寝ている生徒、意欲のない生徒への声掛けや支援を増やし他方が良い。	A	授業力向上アドバイザー事業の取組を通じて、改善を図っていく。	
				1 生徒が分かった、できたという達成感満足感がもてるよう授業を工夫した70%未満		1 分かった、できたという達成感、満足感がある60%未満					
		勇気づけ言葉の実践	勇気づけ言葉の実践	4 勇気づけ言葉を意識した指導を行った90%以上	4	4 生徒の考え方・活動・頑張りを認めてくれる75%以上	4	些細なことでも頑張ったことを具体的に褒めることを実践していたが、生徒にその実感がない現状もあった。	A	取組を継続し、自尊感情・自己有用感の醸成に努めていく。	
				3 勇気づけ言葉を意識した指導を行った80%以上		3 生徒の考え方・活動・頑張りを認めてくれる70%以上					
				2 勇気づけ言葉を意識した指導を行った70%以上		2 生徒の考え方・活動・頑張りを認めてくれる65%以上					
		他者理解を心掛け人間関係における課題を見つけ解決していく生徒の育成	学級活動・行事・生徒会活動・部活動等における円滑な人間関係の構築	1 勇気づけ言葉を意識した指導を行った70%未満		1 生徒の考え方・活動・頑張りを認めてくれる65%未満					
				4 生徒の主体性を育む活動をした90%以上	3	4 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた60%以上	4	生徒間でも認め合う雰囲気ができる。自ら進んで挨拶することが課題である。	A	挨拶運動を継続し、温かな人間関係の構築に努めていく。	
				3 生徒の主体性を育む活動をした85%以上		3 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた55%以上					
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒の育成	主体的な健康管理を推進する生徒会活動の活性化	2 生徒の主体性を育む活動をした80%以上		2 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた50%以上					
				1 生徒の主体性を育む活動をした80%未満		1 行事、学級活動を通して思いやりのある行動がとれた50%未満					
		防災意識の高い生徒の育成	毎月の避難訓練における意識の向上と命を守る指導の徹底	4 防災意識を高める指導を積極的に行行った95%以上	4	4 自ら進んで日々の健康管理に努めた65%以上	4	委員からの呼びかけ等、感染症予防の取組は継続していたが、コロナ禍に比べると徹底はしていないかった。	A	生徒主体で健康管理・感染症予防ができるように委員会活動を充実させる。	
				3 防災意識を高める指導を積極的に行行った90%以上		3 自ら進んで日々の健康管理に努めた60%以上					
		自らの体調を自己管理できる生徒の育成	朝学活時の生徒の健康観察の実践	2 防災意識を高める指導を積極的に行行った85%以上		2 自ら進んで日々の健康管理に努めた55%以上					
				1 防災意識を高める指導を積極的に行行った85%未満		1 自ら進んで日々の健康管理に努めた55%未満					
				4 生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた90%以上	4	4 朝食を毎日食べている75%以上	4	生徒の姿勢や表情を觀察し、気になるがあれば、声を掛けることを徹底していた。	A	引き続き、学校全体で感染症予防に取り組んでいく。	
				3 生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた80%以上		3 朝食を毎日食べている65%以上					
輝く未来	自主自律	自ら課題を見つけ解決していく生徒の育成	自主自律を促す生徒による行事の運営の推進	2 生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた70%以上		2 朝食を毎日食べている60%以上					
				1 生徒の顔色や表情の変化を見逃さず、声を掛けた70%未満		1 朝食を毎日食べている60%未満					
		学校と家庭が連携した生活習慣の確立	家庭学習の定着を図る取組	4 家庭学習への指導を毎週行行った90%以上	4	4 行事・委員会活動等に自ら進んで積極的に参加してきた80%以上	4	リーダー育成の視点をもち、生徒主体となる取組となるよう、運営できた。生徒の達成感も高かった。	A	引き続き、生徒主体の活動ができるように充実と活性化を図っていく。	
				3 家庭学習への指導を毎週行行った80%以上		3 行事・委員会活動等に自ら進んで積極的に参加してきた75%以上					
輝く未来		将来の生き方を考えられる生徒の育成	キャリアパスポート、職業調べ、職場体験、上級学校調べ等キャリア教育の充実	2 家庭学習への指導を毎週行行った70%以上		2 家庭学習への指導を毎週行行った70%未満					
		1 家庭学習への指導を毎週行行った70%未満	4 将来の生き方にについて自ら進んで考えた80%以上	2		教科担当の意識が低く、考査前以外に呼びかけや指導は殆どなかった。	B	学習eポータルを活用し、家庭学習の状況を把握し、具体的な取組を進める。			
		4 生徒が主体的に取り組めるよう指導した95%以上	3 将来の生き方にについて自ら進んで考えた75%以上								
		3 生徒が主体的に取り組めるよう指導した90%以上	2 将来の生き方にについて自ら進んで考えた70%以上								
		2 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%以上	1	1 将来の生き方にについて自ら進んで考えた70%未満	4	生徒が自己の進路学習に前向きに取り組んでいたが、若干、主体性に欠けた指導であった。	A	キャリア教育全般を通して、自ら考え、判断していく場面を増やしていく。			
		1 生徒が主体的に取り組めるよう指導した85%未満		1 将来の生き方にについて自ら進んで考えた70%未満							